

京 佛

夏 季 号



教王護国寺 国宝 五重塔

京 都 仏 教 会

理事長
有馬頼底

評議員
岡本龍雄

園部町仏教会会長
吉田環樹

常務理事
荒木元悦

川村俊弘

京丹波町丹波仏教会会長
長澤智雄

宮城泰年

菊入諒如

京丹波町丹波仏教会会長

長澤智雄

佐分宗順

小出量堂

福知山市仏教会会長
大江文章

理事
大西真興

森孝忍

綾部市仏教会会長
黒川泰信

安井攸爾

塩見明德

綾部市仏教会会長

黒川泰信

掃部光昭

多紀穎忍

加悦谷仏教会会長
中島晃昭

北川隆法

田中恵厚

加悦谷仏教会会長

中島晃昭

北園文英

谷内弘照

大江町仏教会会長
若田真樹

坂口博翁

戸田妙昭

大江町仏教会会長

若田真樹

澤宗泰

町田泰宣

京丹波町和知仏教会会長
竹中成圓

砂原秀輝

三浦文良

京丹波町和知仏教会会長

竹中成圓

田邊宗一

横江桃国

三和町仏教会会長
岡田静峰

監事
山木康稔

吉田清順

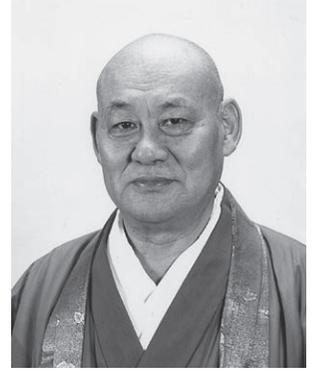
舞鶴東仏教会会長
越後義英

中村覚祐

長澤香静

舞鶴東仏教会会長

越後義英



理事長報告

無 事 じ

臨濟宗相国寺派管長

理事長 有 馬 頼 底

暑さきびしい折ではござい
ますが、各ご寺院の皆様方に於か
れましてはご清祥の御事と存じ
ます。平素は当会に対し、何か
とご協力を賜り厚く御礼申し上
げます

さて当会は本年も、京都府内
の歴史的建造物など数多くの貴
重な文化財を地震・火災から守
り、保存し、未来へ伝えていく
為の「文化財を守り伝える京都

府基金」への協力。音舞台シリ
ーズ、施設での護摩木制作等の
文化福祉活動。文化財用材確保
の為の有識者会議への参加等を
前年に引き続き推進して参りま
す。

また、平成二十七年年度はお花
まつり各行事、こども花まつり、
春秋彼岸焼骨灰法要、お盆の探
燈大護摩供、師走の成道会等、
例年の宗派を超えた仏教諸行事
につきましては滞りなく実施さ
れました。また平成二十二年十
月に発足させました「明日の京
都・文化遺産プラットフォーム」
もこれまでに世界遺産条約四十
周年京都会議、第三回となる「世
界遺産ネットワーク会議」や記
念フォーラムの開催等本格的な
活動を行い、一昨年はユネスコ
世界遺産指定二十周年を迎える
中、様々な取り組みを実施致し
ました。本年度も立命館大学を
事務局に種々の事業を行い、無
形文化遺産シンポジウム、文化
庁京都移転の為のフォーラム、
こども茶会の実施に加え、京都
の大切な文化遺産を多くの学生
に理解を深める「世界遺産PBL
授業」を大学コンソーシアム
と連携し、文化財の保存と継承
を行政と所有者のみならず大学
や若者とともに地域連携をはか
りながら、京都全体の文化的景
観を周辺地域（パツファゾーン）
も含めて取り組んで参ります。

さらに伝統産業に携わる職人
の若手育成の為のシステムにつ
いては京都府と構築し、神社庁
とも協力しあい支援を行って参
ります。オフシーズン対策とし
ては冬の「花灯路」、夏の「京
の七夕」を本年度もオール京都
で積極的に行って参ります。

平成二十七年年度は「宗教都市
京都を考える」研究会で「医療
と仏教」をテーマに医療従事者
と学者、僧侶、病院が連携し、
京都から何が発信できるかをよ
り具体的に考えて参る中で、「い
のち、そして死」―宗教都市・
京都からの提言―を刊行し、よ
り広く全国の医療・宗教関係機
関に配布を実施できました。

一方で、宗教を取り巻く情勢
も刻々と変化しつつあります。
次世代の宗教者への提言として
平成二十七年年度から引き続き、
本年刊行の「古都税の証言」記
録集に取り組んで参ります。

本年も信教の自由・政教分離
の原則を重んじ、各宗教とも情
報交換を行い、各識者の方々と
もより積極的に交流を行って参
ります。

無 事

人間誰しも無事でありたいと
願うのは同じです。しかし、そ
うは言っても無事であり続ける
のは、なかなか容易なことでは
ありません。病気になる事もあ

るでしょうし、急に事故にあわ
ないともかぎりません。また、
生きていれば様々な苦しみや悲
しみもあるでしょう。一生を振
り返ってみれば、無事であった
時のほうがむしろ少ないかもし
れません。しかし、それだから
こそ無事であることの喜びには
ひとしおのものがあるのだと思
います。つまり「無事」という
のは、何事も無い、何事も起こ
らないという意味ではあるけれ
ども、同時にそこに至り着くま
での様々な難関、紆余曲折を一
つ一つ乗り越えた後の喜びとい
うニュアンスがあるのです。険
しい山をいくつもいくつも踏み
越えて、ようやく辿り着いた平
坦な道、そしてそれまでの苦し
い道のりを振り返って、「ああ、
無事でよかった。」とほっと安
堵する。それが「無事」という
言葉にこめられた本当の意味だ
ろうと思うのです。

ですから、ただ何もしないで
平々凡々と過ごす無事ではなく
て、人に言えない努力を重ねた
後に、ようやく獲得した無事、
しみじみと何事も無いことのあ
りがたさを喜び合う無事、そう
いう境地に立ちたいものだと思
うのです。

まだまだ続く暑さでございま
すが、諸大徳の皆様のご更なるご
健勝を心より祈念申し上げます。
第でございませす。

合掌

恵心僧都源信 千回忌記念

～平安期蓮宗東山義本山安養寺の浄土教の変遷～

「開山源信・安養尼願証・隆暹」

京都仏教会 理事
安養寺 名誉住職

北川 隆法



はじめに

当山は、八十九代後深草天皇寛元三年（正嘉二年（一二四五）一二五八）・第九十二代伏見天皇 弘安十年（永仁五年（一二八七）一二九七）の勅命により両天皇の勅願寺にもなり、鎌倉期の証仏の中興発展時代以来江戸末期の文化・文政時代（一八一八）一八二九）には華台院洛陽本山安養寺官寺と名乗っていた。

去る六月十日、安養寺を開山とした恵心僧都源信（以下、源信）（天慶五年―寛仁元年（九四二）一〇一七）の千回忌を迎えた。比叡山横川の修行に常行三昧と念仏三昧があり、何かとと言うと念仏三昧に徹していた。天台浄土教始祖の千回御遠忌法要が、此の六月十日厳修された先に、世界遺産宇治平等院では、平等院を創設した藤原頼通（九九二―一〇七四）の「関白忌」（九四三回忌）法要とともに恵心僧都源信の千回忌法要も兼ねて執行された。

倒蓮華安養寺（以下、当山）の由緒はきわめて古く、寛和二

年（九八六）に源信が奈良當麻に建てた華臺院がはじまりである。源信は永観二年（九八四）九八五）に『往生要集』の著述を完成させるが、その前に母の菩提を弔う為、華臺院を建立し中陰を勤め、その後妹の安養尼に華臺院を譲った。

この事が「新修京都叢書」に示されており、引用すると「花山院寛和二年天台僧都恵心上人於和州 勅建寺號華臺院、師姨安養尼者上人之妹 而訪居是因改称安養寺、鳥羽院天永年中沙門隆暹現奉佛勅、移城州」・・・に続き「後深草院宝治年中 勅為禱祚之道場 賜晨奎額、傳言、斯堂 建時方三間也 畠山重忠助資料 仏前柱悉有撒金之絵、近世嫌其堂之狭小、改造之 然須弥壇等用、始所、有黒漆螺鈿等古代之物也」は御深草天皇の宝治年中（一二四七）一二四八）当山が勅額を賜り朝廷の勅願寺となった。以上引用文中より源信の華臺院の堂・内の様子・構造等に続き、安養尼の華臺院から安養寺改称、隆暹の洛中移転の理由が明確になる。

「浄土七宝の蓮台にして、やがて見え奉るべし」と同声に念仏し給ふ、母公自ら起き直り、西に向かい合掌、・・・念仏四十余り繰り返しの後、眠るかごとく息絶えたまり、ときに「花山院君御宇寛和元年九月八日酉の剋也、僧都母公荼毘し終わり、自手願像を図し、当麻の里に草庵をむすびて華臺院と号す」その後妹安養尼に此の寺院を付属し、「又比叡山（横川）に加え給いける」^③

母公は源信四十四歳の時、寛和元年（九八五）九月八日に亡くなっており、妹である安養尼は浄土三部経を土壤にした、信仰の厚かった母の薫陶を受け、又兄源信の著した往生要集を熟読し、更に浄土三部経の教義へ

当山の御本尊でもある倒蓮華（さかれんげ）阿弥陀如来像の台座は本来の台座とは少し異なる。台座がその名の通り逆さに倒されて、その上に阿弥陀如来

像が立っている。この台座の伝承に至っては、「安養寺本尊縁起」（龍谷大学図書館所蔵）に詳しく記されている。仏像の完成後、台座は三度に渡って崩れ、それを見た源信の母公は痛心のあまり仏前に籠っていると、その晩ご本尊様が夢の中に現れ次のように告げた。『八葉のさかれんげを作り安置せよ。』その理由は、大日経の疏にある。そこには、男子の心は蓮華上に向い、女人の心は下に向かつて倒さまでであると説かれる。阿弥陀仏は重ねて三十五の本願を誓うので倒さの蓮華を踏まえて女人往生の証拠に立つのである。

この「安養寺本尊縁起」では源信のことをこうも記す。「天性聡明にして一を聞いて十を悟る一山の硯学三千禅徒、新に不思議な法器かな、わが山の法燈、此の人にこそ挑むへかりけれど各々随喜贊嘆せり、師匠の僧正良源喜び給い、あはれ早く法師になりて一山の名譽^⑤」と言われしめ、その名声は比叡山三千坊は言うに及ばず、都にまで届き朝廷を含む貴族社会への往生思想・念仏信仰と結縁（迎講）にまで及んだ。

当時の情勢は桓武天皇の平安遷都後も国家の安泰は祭祀一致・鎮護国家・祈祷により国の平和と民の安泰を政治の目的とし、比叡山では最澄によって大乘戒壇院が大同元年八〇六年に設立され、国家平和・安恩祈願と朝廷の安泰を願った。また僧侶が此の戒壇院に於いて戒を授戒し、官位を得た僧には律師・僧都と言う官僧の位を与え鎮護国家の役割を担わせていた。

源信は六月十日に臨終を迎えたが（挿絵参照）、その五日前には自分の臨終近しの夢を見、九日の半夜になると源信は手に五色の紐で繋ぎ称名念仏を唱え、無量寿阿弥陀如来が来迎し、西方浄土に導かれ、念仏三昧にて成仏されたとされる。観経曼荼羅には三福九品の凡夫の蓮座がある。これは往生者の機根の高低、信仰の深浅に応じて九種の来迎があるというものである。この仏の慈悲に対して源信は、「上品往生は高望み、下品下生で十分」と言われたそうだと。私は、源信のこの言葉こそが釈尊の真髓を熟知された僧侶の言葉ではないかと思う。

源信寛和二年（九八六）「二

十五三昧結縁^⑥」(迎講)衆となつてゐる(今も天台宗六道講式)この迎講とも言ふ法会修行、この講には在家念仏者の受講が可能であり、しかし日々念仏三昧に徹し、毎月十五日には念仏三昧に明け暮れなければならぬ念仏行の深さに在る。

安養尼の結縁の相違は「来迎願阿弥陀如来・発遣教主釈迦牟尼如来」が資料の通り「至心信樂欲生我國 乃至十念 若今生者 不取正覺」と「称佛名故」命終の時：「如一念頃」即ち「極樂世界に往生」この二尊の諸法の實相と法の働きのより、鎌倉期に法然上人が他力易行念仏を標榜された、教えに匹敵する。此の点に相違があると思う。

次に今日の安養寺の基を築いた安養尼について少し述べたい。

源信の妹安養尼願証（天歴六年・長元七年（九五三―一〇三四）母公は清原氏姓他は不詳、然しながら教養が高く昔物語・源氏物語など二人の名が連なっている（岩波古典文学全集）事がある。「国宝當麻曼荼羅」を土壌にした信仰の厚い母の基に育ち法華経を初めとする浄土

三部経の教義の真理や世間の真理にも明るく、学問的才能・仏道精進の志は兄を凌駕していた。三部経の弥陀の本願第十八願念佛往生の本願衆生往生の誓いの中から善悪・男女等しく往生をすることを説き、更に当時に卑しまれ、虐げられていた女性のために第三十五願女人往生の願により、女人救済の法を説き、施食・施薬を行ひ念仏の教えを説いた。

安養尼は前述の事をよく理解し、洛中・當麻に於いて、女人は元より、貧しい人、富める人等、誰でも救つてあげたいとの願いを持って、この結縁^⑦は（後時代に今の五重・受戒儀式に近い）行事を洛中や當麻の里で行い、世の人々より親しまれ、人氣がありこの平安期に世に知られるのである。安養尼の仏の慈悲のような思いやりは十訓鈔の説話にその人柄が伺える。また安養尼と同時代に貴族社会に属していた源 経頼（九七六―一〇三九）は万寿二年（一〇二五）年十一月八日結縁^⑧の為に、安養尼の元に赴き佛の本願念仏の教えを聴聞し、戒めを聞き、観経に説かれる弥陀・釈迦二尊

の教えに出合い、私さえも救って下さるとの思いの、もとに念仏行を行ったとされている。

源信の「往生要集」と往生思想の展開・結縁、安養尼の女人往生と結縁を中心とした二人の実践は、鎮護国家の折袴や僧侶が修行実践為の仏教を一般社会の人々が信仰により、より良く生き、死後極楽に往生を出来る仏教として、浄土教の創建とも言うべき業績は評価すべきではなからうか。

源信千回忌法要を行った現世の極楽浄土をあらわした宇治平等院は、当時の朝廷・貴族社会から庶民へ多大な影響を与えた。このような社会風景を感得された当時の天皇、鳥羽天皇は、浄土教の法脈相承と念仏信仰の拠点として、初めて洛中に安養寺移転・建立の勅を隆暹(当山中興之祖)に下されたのである。阿弥陀仏の浄土往生願う、念仏信仰が貴族から庶民にまで浸透した当山の役割は非常に大きいものであったのではないかと私は考察する。

当山では恵心僧都源信の千年忌を迎えるにあたり、予ねてから進めていた寺宝調査を平成二

十四年に終え、さらに初めて寺宝展を開催した。その結果、四日間て延べ一二〇〇人の参拝者を迎えることができた。寺宝調査の結果、紺紙金泥三部経(写真①②③)・絹本着色一部截金真向阿弥陀尊像(写真④)、絹本刺繍縫地藏尊像 安養尼作(写真⑤)、紺紙金泥卷子装丁の浄土三部経(「仏説觀無量寿経」「仏説無量寿経(上・下)」)となり、残念なことに「仏説阿弥陀経」一巻を欠く。更には二十五三昧式に使用される(痛みが酷く)「二十五菩薩来迎図」(観音・勢至始めとし二十五菩薩の下に「空海弘法大師」絵像が描かれた来迎図があり、平安期源信が二十五三昧会(迎講)使用したと考えてもよいのではないかと、平安末期から鎌倉時代に至る什物であることが明らかとなった。

特に紺紙金泥の浄土三部経は、巻頭に挿絵が金泥で施されており、またそこに描かれる仏の表情も平安朝の童顔であることや史料の面からも非常に貴重な経典であることも明らかとなった。そして昨年度京都府文化保護課と相談の結果、平安時

代末期に製作された貴重な文化財として保護の必要ありとの認定を受けた。そのほかに、後陽成天皇の宸筆名号やその裏付けとして当山第三十世義空は慶長三年二月十九日付けの書簡や、さらに宮内庁書陵部に過去帳第三〇世義空筆なども現存する。

最後に当山の本堂について触れたいと思う。本堂正面には「本尊倒蓮華阿弥陀如来像(室町)」、右脇上段に「宗祖法然上人像、後深草・後伏見天皇位牌」左脇上段に「一木彫釈迦如来像(室町期)」、毘沙門天像(鎌倉期)「六地藏菩薩像」下段に「源信像乾漆」を祀り、山門前御堂には「弁財天像」「北向地藏尊像」。「不動明王像」(鎌倉末期畠山寄進)・祀っている。また本堂階段下「北向地藏尊」(石像)を祀り、「気管支の病(主に喘息等)」が治ると言う言い伝えもあり、今でも母子共に祈願に訪れる姿がある。尚諸尊の配置については、「安養寺本尊縁起」で記されている通りに現在も安置している。

あとがき

当山が平安期より洛中に在りながら、度重なる京の大火にて多くの什物を焼失したと考えていたが、今回の調査で、由緒正しき仏像・仏具・掛物・巻物であることが明かとなった。正に平安期における洛中に存在し浄土教門念仏信仰が朝廷・貴族・庶民へと宣布し、源信・安養尼・隆暹がその役割を果たし、次の鎌倉期に至り、證佛弘安二年(一一八六)当寺第十四世・浄土第一世過去帳に浄土始祖蓮宗東山義本山と名乗り、松原通油之小路樋口より四条西洞院に移し、當麻曼陀羅講説を行うなど念仏道場として他力易行の念仏の教えを庶民に説いていたのである。

第十五世・浄土第二世東山義義祖觀鏡證入建久二年(一一九六)一(二四五)派祖西山証空上人の高弟にして東山義の「西山門下四個流」一派随一の東山義を完成し、蓮宗東山義本山安養寺が成立し、「五祖一徹」を称えた人物として知られている。(永観堂展出品「中国浄土五祖像」巻物がある。

浄土第三世彰空阿日延慶二年(一一三〇)西山教学・説法に優れ、近年安心決定鈔の著

者ではないか最近はこの著者論

が、「収斂されつつあり」確定

論まで進みつつある。真宗の覚

如・存覚へ二十年にわたる西山

教学の講学（五部九卷・無量寿

経・中論・念仏鏡）した論文も

あり、当時洛中の人々は阿日

の人の柄や説法に魅せられ、その人

気基に阿日寺と言われるほど

人々を魅了し、安養寺は大いに

賑わったと安養寺縁起に記さ

れ、證入の称えた「五祖一徹」

のごとく継承され当山の存在価

値は高まった。以上の如く安養

寺浄土教は平安期の「紺紙金泥

浄土三部経・二十五菩薩来迎図

の空海弘法大師の姿が描かれ、

「絹本截金金真向阿弥陀如来像」

これらの寺宝の存在、その他豊

富な資料により、当山が平安期

に於ける寺史としていかなる経

過により創建され、由緒に就き

明確且つ実証的考察が出来た事

は、古今東西変わりなき精神、

「文化財・寺宝は勿論の事」等

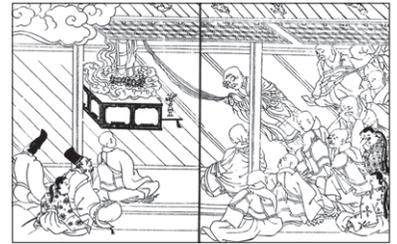
価値の在るものを保護継承する

気概に、歴代先達・「源信（千

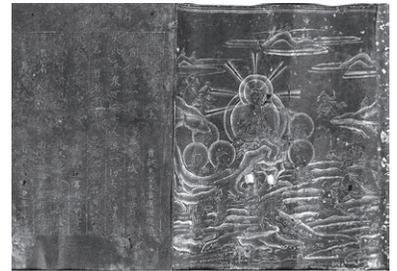
回忌記念）・安養尼・隆暹」が

築いてきた業績に報恩感謝した

△参考資料・挿絵・写真▽



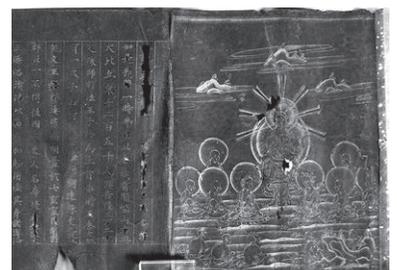
（挿絵）源信の最期「恵心僧都絵詞伝」



写真① 無量寿経 (上)巻巻



写真② 無量寿経 (下)巻巻



写真③ 観無量寿経 巻巻



写真④ 絹本著色一部截金 真向阿弥陀如来像 恵心僧都源信筆



写真⑤ 絹本刺繍 地蔵尊像 安養尼公作

△引用・参考文献等▽

- ・「阿日房彰空と樋口安養寺」上田良準（印度学仏教学研究）第九卷第一号 一九六一年
- ・「さかれんげ阿弥陀如来 安養寺と女人救济」大江 篤著 園田学園女子大学論文集三十二 一九九六年
- ・「安養寺本尊縁起」資料紹介・龍谷大学図書館所蔵 大江 篤・倉橋 昌之 園田学園女子大学論文集三十二 一九九七年
- ・「漆塗り箱入帳」模写本江戸前期・安養寺由緒縁起三卷）当山所蔵
- ・「倒蓮華阿弥陀如来と女人往生について」一卷・過去帳（当山所蔵）
- ・「過去帳源信伝」宮内庁書陵部所蔵
- ・「源信」（小原仁著等学術書）
- ・挿絵 原信の最期「恵心僧都絵詞伝」（龍谷ミュージアム蔵）

①朝日新聞朝刊京都版平成二十八年三月二日・平等院を創建した関白藤原頼常「関白忌」九四三回忌が厳修され、同時に平安時代の高僧恵心僧都源信の一千回忌法要が営まれた。即浄土念仏信仰と源信との密接な関係を示すものである。「源信僧都伝」には平等院以前に華臺院創建に際し其の基と成る。「往生要集・仏説阿弥陀經」に描かれる佛菩薩聖衆が圍繞（取囲む）伎楽・詠歌以て賛嘆すとある。華臺院堂内にその前生と源信作・傳來迎図が多くの関係寺院に伝承されはこの点にあると考えられる。

②花山天皇寛和元年（九八五）冷泉天皇第一皇子一七歳即位然し陰謀により失墜され、何か佛縁があったのか失望のあまり往生要集で知られる横川の源信の下に往かれ結縁を受けられ、朝廷との縁の初めとなる。

③源信は横川に帰山後寛和二年（九八六）華臺院創建は、母の中陰終わりて如く寛和元年十一月以降より寛和二年末（九八五）頃と推測されるが、小原仁「源信」年表には長保三（一〇〇一）年かと記され、最早丈六阿弥陀如来が三間四方の堂に祀られるときとされるが時代の誤差は多少あつても、それは元資料によるもので当山は所蔵の過去帳・安養寺由緒縁起に帰されるの記録にもとずいた。

④縁起にあるように、これだけの土地建物が一期に整うと言う事は、隆暹の学識人望も然ることながら、源信の政治的な関わりや、往生念仏信仰を通じての朝廷や貴族との信頼関係があつてこそ可能であり、更に安養尼が説いた、「華洛の諸人は靈佛拝み奉る事悦びて、掌を合わせり」が庶民の人氣を集めた点も可能性の一つかもしれない。

⑤「安養寺本尊縁起・資料紹介」龍谷大学図書館所蔵 大江 篤・倉橋昌之 園田学園大学論文集 三十二 一九九七年

⑥傳現以下・畠山重忠・源平時代武將の今埼玉市公園に鎧兜刀纏騎乗した勇猛な武將の銅像が存在し、助資料に就き安養尼時代に倒蓮華阿弥陀如来守護の為と不動尊・毘沙門天を寄進され現在山門前御堂と本堂に毘沙門天を祀る。

⑦「安養寺本尊縁起・資料紹介」（龍谷大学図書館所蔵）大江篤・倉橋昌之 園田学園大学論文集 三十一 一九九六年

△研究ノート▽平安・鎌倉期・蓮宗東山義本山安養寺浄土教の変遷 安養寺住職 北川隆法 西山禅林寺学報第三十一号 二〇一二年

⑧源信の結縁衆に成る前に二十五三昧会は結衆されていたが事実上は源信が中心に往生要集を基にした、臨終の際に極楽浄土に往生出来る様「聖衆來迎（迎講）」頂く為に念仏三昧する往生思想、二十五とは阿弥陀如来始め観音・勢至菩薩以下二十五菩薩來迎図を正面に祭り、その儀式作法により法会を執行、在家の人もこの式への参加が許され、花山天皇も僧籍に入られる前に源信もとに結縁されている。現在はこれを六道講式法会として、源信の千回忌も六道講式により去る六月十日の命日に御恩忌法要が行われた。

⑨十訓鈔中の安養尼の説話（作者不明鎌倉中期作）「横川の恵心僧都の妹、安養の尼上もとに、強盗が入りて、あるほどの物の具、みなとりていでければ、尼上は、紙ぶすまと言ふものばかり引き着て居られたりけるに、姉願西なる尼のもとに、小尼上ありけるが、走り参りて見れば、小袖を一つ落したりけるればを取りてのちは、わが物とこそ思いつらぬめ、主の心ゆかぬものおは、いかが着るべき。いまだ遠くはよも行かじ、とくとく持ておはして、取らせたまへ」とありければ、門戸のかたへ走り出でて、やよと呼び返して、これを落とされにけり、確かに奉らむ、と言ひ、盗人ども立ち止まりて、しばし案じたる気色にて、あしく参りけり、とて取りたる物ども、さながら返し置着て、帰りにけり。」

⑩安養尼結縁とその根拠の経文 無量寿經「第十八願 設我得仏 十方衆生 至心信樂 欲生我國 乃至十念 若不生者 不取正覺 唯除正法」二觀無量壽經「下品下生者 或有衆生作不善業 五逆十惡 具所不善 如此愚人・・善友告曰 汝若不能念舍 應稱無量壽佛。如是至心 令声不絕 具足十念 称南無阿弥陀仏。称佛名故 於念念中 除八十億劫 生死之罪 命終之時 見金蓮華 猶如日輪 住其人前 如一念頃 即得往生 娛樂往生」と経にあり

⑪東大史料編纂所編「民経記」データベース インターネットによる

⑫「彰空阿日と樋ノ口安養寺」上田良華 印度学佛教学研究 第九卷第一号 一九六一年

『ネパール大地震 復興への支援活動に取り組んで』

NGO ネパール『虹の家』
代表理事

福 谷 真 知 子



はじめに

「ナマステ」。ネパールでは手を合わせて挨拶します。

この度、京都仏教会様よりネパール地震復興支援活動にご浄財をお寄せいただき心よりお礼と感謝を申し上げます。

2015年4月、ネパール・シンドパルチョーク大地震、5月のゴルカ大地震で多くの尊い命と日常の暮らしが奪われ、震源地に近い貧しい村の最も貧しい人々が大きな被害を受けました。その状況を知り、困った時こそ助け合い、できることを届けたい、そんな仲間が集まりました。

NGOネパール

『虹の家』設立まで

2015年4月25日、土曜日の午後10時。ネパールの友人がネッシュュから「カトマンズは大変です」という電話が入りました。二日後、「公園へ避難しています。家も全部壊れ、たくさんの方がだめです。テント、ブルーシート、粉ミルクが必要で

す。日本から送ってください」との電話がありました。その

後、電話はつながりませんでした。必要な物資を集められるのか、私は不安と焦りでつぶされそうでした。その後、在住のネパール人プリタムさんとスリジヤナさんと支援イベントを行いながら物資の調達に駆け回りました。5月9日、テント、ブルーシート、粉ミルクなどの緊急支援物資70kgを乗せた飛行機は関空からカトマンズへ向け飛び立ちました。5月18日、お父様の訃報を受けたプリタムさんは緊急帰国。しばらくして、被災地支援に取り組むプリタムさんから「雨露をしのぐ場所もない、十分な食料もない、とりわけ親を亡くした子どもたちが行く場所がない」という情報に最も弱い立場の子どもたちへの手助けが早急に必要だと判断。スリジヤナさんの「子どもたちを助けましょう。親を亡くした子どもたちはどんなでしょうか」の言葉に押され、7月19日、NGOネパール『虹の家』を立ち上げました。

『縁』

なぜ、ネパールなの？

2013年、私は初めてネパールスタディツアーに参加。2014年、再訪。その時ガネッシュさんの案内でタライ平原の学校を訪問。学校の校舎の屋根は萱葺き、土壁に小さな窓があるだけのものでした。しかし、迎えてくれた子どもたちの目は輝き、笑顔があふれていました。その中に年の頃60歳の女性が座っていました。彼女はすつと立つと「私はこの村で生まれ、農業をし、13歳になるとカトマンズで女中として働き、結婚のために戻りました。学校で勉強したことはありません。今、また子どもや孫たちも同じ道を歩こうとしています。勉強をして将来が選べるようになってほしいのです」と、話しました。聞きながら、私は自分と彼女の人生を重ね合わせ涙が止まりませんでした。この出会いが「ネパールの子どもの力になる」と決めたまさかかけです。

ネパール『虹の家』
支援活動の軸は

「親を亡くした子どもたちの
教育支援」

2015年9月。第一回りサーチツアーではカトマンズ、シンドパルチョークの学校や村を訪問しました。当時、政府からの支援は全くなく子どもたちは壊れた教室で勉強していました。サヌタリ村は50世帯のうち40世帯の家屋が全壊し、親を亡くした子どもは3歳から13歳までの11人でした。もともと現金収入を得る仕事は少なく農業中心の貧しい村です。家の再建、生活環境の整備など問題は山積。村人に親を亡くした子どもたちを学校へ通わせる余裕はありません。子どもたちが通うオクレニ小中高校の校長先生は「生徒550人のうち親を亡くした子が50人います。地震以来、授業料が払えないために学校へ来る子どもたちは減り、先生たちが給料から少しずつ出し合いなんとか賄っています」と、困っておられました。

支援活動はサヌタリ村の親を

亡くした子どもたちを中心とし、できる限りの子どもたちへの教育支援と決めました。

子どもたちの居場所づくり

「サヌタリ村コミュニティ
プロジェクト始動」

親を亡くした子どもたちはどんな思いで毎日を過ごしているのでしょうか。寂しさや不安がなくなることはないでしょう。ネパールでは民族ごとにコミュニティをつくり暮らします。子どもたちが安心して暮らし、学び、遊ぶ環境をつくり、その中で育つことが最善だと考えました。そのため、村のコミュニティ力を向上させるプロジェクト「教育支援と学び」、「絵本プロジェクト」、「女性支援」、「生活環境改善」、「防災・心のケア」、そして「コミュニティセンター建設」を構想しました。推進役として『虹の家』のネパールカーンターパート「インターナショナル・セワ・ソサエティ」とサヌタリ村の若者たちでつくるタマンクラブとの協力体制もできました。

きました。

2016年3月。

第二回

リサーチツアーでは

教育支援を受

ける50人の子

どもたちと交流

しました。サヌタリ村

には日本の絵本、手作りおも

ちゃ、衣類、そして、ナップサツ

クなどを届けました。日本の絵

本に子どもたちの目はくぎ付け

になり、何度も手にし、色彩の

美しさを楽しんでいました。女

性支援ソーイングプログラムの

は12人の女性が参加。支援のミ

シン3台を使いながら小物づく

りや女性服作りにチャレンジし、「私たちやりますよ。次も教えてくださいますか」と大喜びでした。

小さなNGOだからできる
顔と顔が見える支援と協力を!!
「ネパールの子どもたちは
待っています」



国際支援活動で難しいことは継続だと。あるネパール人は「ネパール支援で大切なことはネパール人自身が目標をもち自立することですね。それには、技術やシステムの習得が最も重要です。今まで、たくさんの支援者とお金がネパールに入ってきました。建物などはすぐ目に見える支援ですが、技術などの習得には人と人のつながりや長い時間が必要です」と、話しました。

今、NGOネパール『虹の家』には40名の協力者がいます。ネパールには支援と交流でつながった子どもたちが500人以上います。今後は互いの文化や習慣を大切にしたい国際交流と、一人でも多くの子どもたちが学校で学び将来の夢が語れるための息の長い支援活動を目指します。

リサーチを終え、ネパールから帰国すると不思議な充実感を覚えます。それは、私自身がネパールの子どもたちから次の目標や夢をもらったからでしょうか。

ダンネバードウ!! 感謝!!

平成28年度開催

文化財保護の巡回よろず相談[無 料]

文化財保護
シンボルマーク

主な対象地域	実施日時	実施会場
北 部 ※丹後地域	9月7日(水) 午後1時～午後4時	京都府立丹後郷土資料館 2階「研修室」 宮津市宇国分小字天王山 電話0772-27-0230
中 部 ※中丹・南丹 地域	9月8日(木) 午後1時～午後4時	市民交流プラザふくちやま 3階「ギャラリー」 福知山市駅前町400番地 電話0773-22-9551
南 部 ※京都市・乙訓 ・山城地域	9月9日(金) 午前10時～午後4時	ザ・パレスサイドホテル 2階「レガート」 京都市上京区烏丸通り下立売上ル桜鶴円町380 電話075-415-8887

※地域に関係なく、都合の良い会場にお越しください。

指定・未指定を問わず文化財を所有されている京都府内の方を対象に、文化財に係る修理や保存方法、補助金や貸付制度等あらゆる相談、案内を一つの会場内で行える「文化財保護に関する巡回相談事業」として毎年、無料相談を実施していますので、ぜひご利用願います。

《 相 談 の 事 例 》

- * 建造物や美術工芸品などの保存・修理の方法
- * 防災・防犯施設や収蔵庫の整備
- * 補助金や貸付資金（長期・低利）の対象と申請申込み手続き など

【 相 談 参 加 機 関 】

- 京都府（文化スポーツ部文教課、各広域振興局）
- 京都府教育庁指導部文化財保護課
- 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課
- 京都市消防局予防部
- 公益財団法人京都古文化保存協会
- 公益財団法人京都市文化観光資源保護財団
- 公益財団法人京都文化財団〔主管〕

【 協 賛 】 京 都 文 化 財 防 災 対 策 連 絡 会

* お問合せは、(公財)京都文化財団(文化財保護基金室) ☎075-213-3660 まで

「技の継承」事業

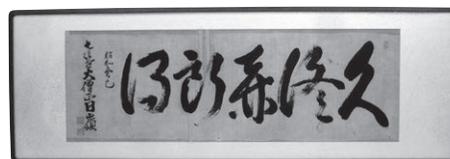
祇園祭各山鉾保存会や府内の神社、寺院が所有する文化資料の復元・新調等を通じて若手職人（京もの認定工芸士）等が京の名工等の指導を受けながら、高度かつ稀少な技術の修得・技術向上を目的とした技術の研鑽・修得を行う。平成二十一年度から、京都府と京都仏教会、神社庁、祇園祭山鉾連合会等が協力し行っている。

平成二十六年度対象寺院

妙蓮寺 衝立（修復）完成品



妙蓮寺 衝立（修復）完成品



眞證寺（亀岡市）掛軸四本（修復）完成品

聖徳太子御影



七高僧御影



親鸞聖人御影



順如上人御影



事業・活動報告

平成二十八年一月一日〜平成二十八年六月三十日

平成二十八年度

- 一月 六日 西陣織工業組合新年総会出席
- 一月 十四日 伊藤若冲生誕三百年懇談会出席
- 一月 十五日 京都伝統伎芸振興財団創立二十周年記念式典出席
 - 於 ウェスタイン都ホテル京都
- 一月 十九日 京都市・京都市観光協会京の冬の旅五十年感謝の集い出席
 - 於 リーガロイヤルホテル京都
- 一月 二十日 JR東海「聖護院に想いを寄せて」京都歴史遺産講演
 - 於 聖護院門跡
- 一月 二十二日 明日の京都文化遺産プラットフォーム主催緊急フォーラム「文化庁を京都に」出席
 - 於 立命館大学朱雀キャンパス
- 一月 二十三日 大阪仏教同友会新年総会出席
 - 於 大阪リーガロイヤルホテル
- 一月 二十六日 全日本仏教会理事會出席
 - 於 東京・明照会館
- 一月 二十七日 インド共和国記念日レセプション森泰長理事出席
 - 於 帝国ホテル大阪
- * 一月 二十八日 『京佛』新年号会報発送
 - 於 京都仏教会事務所
- 一月 二十九日 天台座主半田孝淳大僧正本葬参列
 - 於 天台宗務庁
- 一月 二十九日 京都中央葬祭業協同組合新年会出席
 - 於 きのぶ
- 二月 六日 會津八がたぐ新潟と奈良・京都との交流の集い出席
 - 於 白沙村荘
- 二月 七日 西山浄土宗和歌山県南部十組当会顧問弁護士講演
 - 於 和歌山・薬師寺
- 二月 十二日 京都・花灯路推進協議会幹事會出席
 - 於 東山いきいき市民活動センター
- 二月 十二日 全日本仏教会加盟団体顧問弁護士連絡會出席
 - 於 教王護国寺
- 二月 十四日 光の音符主催第二十二回演奏會出席
 - 於 府民ホールアルテイ
- 二月 十八日 全日本仏教会人権問題連絡協議會出席
 - 於 本能寺本堂
- 二月 二十日 Inter Faith 駅伝祈りの時間出席
 - 於 京都府警察本部
- 二月 二十一日 京都テロ対策ネットワーク「宿泊部会」出席
 - 於 京都府警察本部
- 二月 二十七日 京都仏教会理事・教王護国寺執事長森泰長師本葬儀列席
 - 於 教王護国寺
- 二月 二十八日 第二十二回日本死の臨床研究会近畿支部研究会出席
 - 於 滋賀県・ピアザ淡海
- 三月 三日 京の七夕幹事會実行委員會出席
 - 於 京都商工会議所
- 三月 八日 全日本仏教会財団創立六十周年記念事業勸募部會出席
 - 於 東京・明照会館
- 三月 十日 明日の京都文化遺産プラットフォーム主催無形文化遺産シンポジウム
 - 於 立命館大学朱雀キャンパス
- 三月 十二日 京都・東山花灯路二〇一六オープンング出席
 - 於 京都市東山区総合庁舎
- 三月 十四日 医療と宗教を考える研究会出席
 - 於 京都東急ホテル
- 三月 十六日 京都市観光協合理事會出席
 - 於 京都セレクトリールホテル
- 三月 十七日 明日の京都文化遺産プラットフォーム主催「古都京都の文化財」ネットワーク會議出席
 - 於 立命館大学朱雀キャンパス
- 三月 二十一日 京都市深草墓園春季慰霊式典列席
 - 於 深草墓園
- 三月 二十二日 第三回文化庁京都誘致協議會出席
 - 於 京都プライベートホテル

- * 三月 二十三日 春季彼岸焼骨灰供養法要開催
- 三月 二十五日 京都未来の匠・技の継承事業の実施に係る専門家會議出席
 - 於 相国寺
- 三月 二十五日 京都文化交流コンベンションビューロー評議員會出席
 - 於 祇園祭山鉦連合會
- 三月 二十八日 「京都文化フェア呼びかけ」に基づく推進委員會出席
 - 於 京都商工会議所
- * 三月 三十一日 NGOネパール「虹の家」災害支援金贈呈
 - 於 京都プライベートホテル
- 四月 五日 京都仏教会理事・浄瑠璃寺住職佐伯快勝師葬儀
 - 於 浄瑠璃寺
- 四月 五日 東京水天宮新社殿造替奉祝祭参列
- 四月 八日 おしゃかさまを讀める夕べ開催
 - 於 ANAクラウンプラザホテル京都
- 四月 十八日 文化遺産未来につなぐ森づくりの為の有識者會議理事會出席
 - 於 東京・スクワール麹町
- * 四月 二十二日 こどもはなまつり開催
 - 於 京都仏教保育園協會
- 四月 二十五日 京の七夕実行委員會幹事會出席
 - 於 京都商工会議所
- * 四月 二十六日 第九十二回理事會開催
 - 於 京都仏教會議室
- 四月 二十七日 京都仏教幼稚園協會花まつり園児大会出席
 - 於 みやこっせ
- 五月 十七日 京都市観光協合理事會出席
 - 於 ANAクラウンプラザホテル京都
- 五月 十八日 東日本大震災義援金寄贈
 - 於 福島県真言宗智山派福島第一教区宗務所
- 五月 十九日 全日本仏教会理事會出席
 - 於 東京・増上寺會館
- 五月 二十日 第六十六回社会を明るくする運動京都府推進委員會出席
 - 於 京都平安ホテル
- 五月 二十一日 慈照寺開山忌法要列席
 - 於 慈照寺
- 五月 二十二日 第十七回日本死の臨床研究会中国・四国支部大会出席
 - 於 サンポートホール高松
- 五月 二十四日 和婚入協協議會出席
 - 於 京都府商工労働観光部會議室
- 五月 二十四日 第一回KNERC(ネルク)定時理事會出席
 - 於 ホテルグランヴィア京都
- 五月 二十五日 Inter Faith 日本実行委員會出席
 - 於 立正佼成會京都普門館
- 五月 三十日 三寺院跡御佛法講席出席
 - 於 グランドプリンスホテル京都市
- 五月 二日 清水寺国家安泰世界平和祈願献花祭列席
 - 於 清水寺
- * 六月 三日 第九十二回理事會開催
 - 於 京都仏教會議室
- 六月 三日 京都府宗教連盟常任委員會出席
 - 於 立正佼成會京都普門館
- 六月 四日 日本皮膚科学會総會有馬頼底理事長講演
 - 於 国立京都国際會館
- 六月 七日 京都・花灯路推進協議会幹事會出席
 - 於 東山区総合庁舎
- 六月 九日 世界博物館會議事前協議會出席
 - 於 京都国立博物館平成庁舎
- 六月 十四日 京都市観光協會定時総會出席
 - 於 ウェスティン都ホテル京都
- 六月 二十日 京都文化交流コンベンションビューロー評議員會出席
 - 於 京都商工会議所
- 六月 二十一日 自然環境文化推進機構理事會(兼総會)出席
 - 於 承天閣美術館
- 六月 二十七日 大阪仏教同友会京都例会出席
 - 於 慈照寺

*は当会主催の行事・會合

平成27年度 京都仏教会決算報告書

前期繰越金 1,028,217 円

当期歳入総額 62,477,947 円

当期歳出総額 62,798,235 円

次期繰越金 707,929 円

自 平成27年 4月 1日

至 平成28年 3月 31日

【歳入の部】

(単位：円)

款 項 目	科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
	前 年 度 繰 越 金	1,028,217	1,028,217	0
1	会 費 収 入	3,200,000	3,351,500	151,500
1	会 費 ・ 賛 助 金	3,200,000	3,351,500	151,500
1	1 一 般 会 費	2,400,000	2,430,500	30,500
1	2 賛 助 会 費	800,000	921,000	121,000
2	活 動 協 力 金 収 入	29,050,000	28,261,145	- 788,855
1	教 化 伝 道	29,000,000	28,177,845	- 822,155
1	1 参 加 勤 行	18,000,000	16,463,720	- 1,536,280
2	2 骨 灰 法 要	500,000	465,000	- 35,000
3	3 墨 蹟 展	1,000,000	990,000	- 10,000
4	4 護 摩 木 供 養	2,000,000	2,709,125	709,125
5	5 花 ま つ り	2,500,000	2,540,000	40,000
6	6 観 光 推 進	3,000,000	3,010,000	10,000
7	7 世 界 文 化 遺 産	2,000,000	2,000,000	0
2	広 報 ・ 出 版	50,000	83,300	33,300
1	1 開 運 曆	50,000	83,300	33,300
3	寺 院 協 力 金	27,835,300	27,686,241	- 149,059
4	雑 収 入	1,931,000	2,038,977	107,977
1	雑 収 入	1,931,000	2,038,977	107,977
1	1 運 用 収 入	1,000	567	- 433
2	2 雑 収 入	30,000	42,630	12,630
3	3	1,900,000	1,995,780	95,780
5	そ の 他 の 収 入	0	111,867	111,867
1	1 預 り 金 の 増 加	0	111,867	111,867
	合 計	63,044,517	62,477,947	- 566,570

【歳出の部】

(単位：円)

款 項 目	科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
1	事 務 局 費	33,590,000	33,583,818	- 6,182
1	人 件 費	23,500,000	23,850,303	350,303
1	1 職 員 俸 給	17,500,000	18,478,522	978,522
2	2 厚 生 費	2,600,000	2,775,503	175,503
3	3 通 勤 費	500,000	600,220	100,220
4	4 退 職 準 備 金	1,000,000	278	- 999,722
5	5 退 職 金	1,900,000	1,995,780	95,780
2	管 理 費	7,490,000	7,233,877	- 256,123
1	1 通 信 ・ 運 搬 費	800,000	615,827	- 184,173
2	2 印 刷 費	300,000	346,038	46,038
3	3 備 品 費	600,000	651,480	51,480
4	4 消 耗 品 費	100,000	186,046	86,046
5	5 借 館 費	1,848,000	1,848,000	0
6	6 水 道 ・ 光 熱 費	200,000	175,055	- 24,945
7	7 旅 費 ・ 交 通 費	1,000,000	889,154	- 110,846
8	8 諸 会 負 担 金	900,000	868,200	- 31,800
9	9 弁 護 士 報 酬	432,000	432,996	996
10	10 会 計 士 報 酬	710,000	697,680	- 12,320
11	11 営 繕 管 理 費	100,000	60,462	- 39,538

(単位：円)

款 項 目	科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	
	12	その 他 諸 経 費	500,000	462,939	- 37,061
3		渉 外 ・ 旅 費	1,500,000	1,479,632	- 20,368
	1	渉 外 費	800,000	757,303	- 42,697
	2	慶 弔 費	400,000	480,394	80,394
	3	交 際 費	300,000	241,935	- 58,065
4		諸 会 議 費	850,000	817,188	- 32,812
	1	単 仏 ・ 参 勤 会 議	150,000	119,000	- 31,000
	2	そ の 他 諸 会 議	700,000	698,188	- 1,812
5		調 査 費	250,000	202,818	- 47,182
	1	資 料 収 集 費	250,000	202,818	- 47,182
2		活 動 経 費	28,250,000	28,186,200	- 63,800
1		教 化 伝 道 活 動	18,950,000	19,477,065	527,065
	1	参 加 勤 行	8,400,000	8,181,895	- 218,105
	2	骨 灰 法 要	1,600,000	1,544,518	- 55,482
	3	墨 蹟 展	500,000	616,011	116,011
	4	護 摩 木 供 養	800,000	894,860	94,860
	5	観 光 推 進	1,800,000	1,497,221	- 302,779
	6	仏 教 諸 行 事 関 連	1,000,000	1,102,192	102,192
	7	花 灯 路 事 業	100,000	100,420	420
	8	花 ま つ り	4,000,000	4,673,101	673,101
	9	成 道 会	300,000	385,646	85,646
	10	永 年 勤 続 表 彰	300,000	299,700	- 300
	11	宝 物 展	150,000	181,501	31,501
2		広 報 ・ 出 版 活 動	3,550,000	2,533,395	- 1,016,605
	1	暦 ・ 諸 出 版 他	200,000	241,592	41,592
	2	機 関 誌 発 行	3,300,000	2,248,423	- 1,051,577
	3	ホ ー ム ペ ー ジ 運 営 費	50,000	43,380	- 6,620
3		そ の 他 事 業	5,750,000	6,175,740	425,740
	1	宗 教 と 政 治 問 題 研 究 活 動	1,500,000	1,210,156	- 289,844
	2	文 化 財 保 護 対 策 費	150,000	157,019	7,019
	3	世 界 文 化 遺 産	2,000,000	2,201,835	201,835
	4	明 日 の 京 都 補 助 金	200,000	200,000	0
	5	古 都 税 記 録 集 補 助 金	200,000	200,000	0
	6	時 局 対 策 金	100,000	519,500	419,500
	7	未 払 い 金 の 減 少	1,600,000	1,687,230	87,230
		予 備 費	1,204,517		- 1,204,517
		次 期 繰 越 金	0	707,929	707,929
		合 計	63,044,517	62,477,947	- 566,570

別紙の通り報告します。

平成28年5月20日
京 都 仏 教 会

理 事 長 有 馬 頼 底 印

理 事 (財 務 担 当) 大 西 真 興 印

事 務 局 長 長 澤 香 静 印

帳簿、証票書類を監査の結果、別紙の通り相違ないことを確認しました。

平成28年5月20日
京 都 仏 教 会

監 事 山 木 康 稔 印

監 事 中 村 覚 祐 印

平成28年度 事業計画

〈総務部〉

〈*は新規事業〉

1. 諸 会 議	1. 役員会 2. 各種会議 3. 各種委員会 4. 諸団体連絡会議 5. 懇親会	1. 理事会 年2回 2. 評議員会 年1回以上 1. 単位仏教会 年1回 2. 参勤僧会議 年3回以上 1. 宗教と政治検討委員会 年1回以上 2. 国家と宗教研究会 年2回以上 3. 各種委員会の設置 1. 全日本仏教会 2. 京都府宗教連盟 3. 近畿宗教連盟 4. 日本宗教連盟 5. 京都商工会議所 6. 京都市観光協会 7. 京都文化交流コンベンションビューロー 8. 宗教学会 9. 古典の日推進委員会 10. 明日の京都 文化遺産プラットフォーム 1. 懇親会 年1回
2. 広報・調査	1. 広 報 2. 調 査	1. 会報の刊行 年2回 2. 会員への情報提供（随時） （税務・環境問題・法人問題など） 3. 仏教会ホームページ運営 1. 各種調査・研究・統計・資料収集 （時事問題の分析）
3. 渉 外	1. 慶 弔 2. 渉 外	1. 慶弔（本山寺院及び一般関係） 1. 中央省庁・府市行政との交流 2. 京都にて開催の行事・国際会議等への協力
4. 時事対策	1. 組織強化 2. 時事対策	1. 加入寺院・未組織地域の組織化 2. 賛助会員強化 1. 宗教法人法改正問題への法的対応 2. 公益法人制度改革への対応 3. 宗教法人設立認証に関わる文化庁の審査基準への対応 4. 自由民主党による「日本国憲法改正草案」について

〈事業部〉

1. 仏教文化・調査・研究 広宣	1. 仏教文化の啓蒙・広宣・保護	1. 仏教文化の研究などの奨励・協賛 2. 古文化保存協会との交流 3. 京都文化財団との交流
2. 教化・伝道 事業	1. 仏教美術・文物紹介 2. 講演活動 3. 音舞台シリーズ 4. 仏教思想の実践活動	1. 仏教番組の企画監修 （毎日放送において「京都知新」、 「京都プロジェクト室」） 2. 大日本印刷「京都太秦文化遺産ギャラリー」の監修 1. 各宗派管長による仏教文化講演会の全国開催 * 1. 本年度第29回は萬福寺にて9月3日（土）開催 1. 地域福祉活動・青少年育成 （授産施設「のぞみ学園」、 福祉施設・仏教老人ホーム、保育園への慰問）

	5. 仏教諸行事	2. カウンセリング（信仰問題・情報提供） 3. 文化財を守り伝える京都府基金 4. 災害募金箱の設置（ネパール大地震）
	6. 合同慰霊行事	1. お花まつり・こども花まつり 2. 孟蘭盆会大護摩供法要・成道会 3. 知床毘沙門堂法要・日田弁財天堂法要 4. 京の七夕神仏合同法要（清水寺） 1. 参加勤行（中央斎場の読経僧派遣） 2. 深草墓園（京都府宗教連盟共催） 3. 春秋彼岸焼骨灰供養法要 （京都中央葬祭業協同組合共催）
3. 寺院運営 援助事業	1. 寺院援助活動	1. 宗教法人の財務・税務及び法律対策 （顧問弁護士・税理士の派遣） 2. 永年勤続住職の表彰 （50年 知事表彰 30年 理事長表彰） 3. 京都府伝統産業人材育成補助事業
	2. 宗教法人法の研究・啓蒙活動	1. 各本山、地方の教区での宗教法人法に関する研修会への協力
	3. 寺院運営研修案内	1. 包括宗教法人管理者研究協議会 宗教法人実務者研修会（文化庁） 2. 人権研修会（京都府・全日仏）
4. 広報・出版 事業	1. 定期刊行物	1. 会 報 年2回 2. 開運暦・図書紹介
	2. 研究小冊子発行	1. 古都税の証言集 一次世代の宗教者への提言一
5. その他 諸事業	1. 各種関連協議会	1. 文化遺産を未来につなぐ森づくりの為の有識者 会議 2. 地震火災から文化財を守る協議会 3. 外来種生物の文化財に与える影響について （関西野生生物研究所） 4. 明日の京都文化遺産プラットフォーム （立命館大学）

〈観光推進事業部〉

1. 諸 会 議	1. 役員会 2. 諸団体連絡会議	1. 観光推進事業部会議 1. 京都市観光協会との会議 2. 各種観光関連業界との会議
2. 関連事業	1. 事 業	1. 「京都・花灯路」事業（東山・嵐山界限） 2. オフシーズン夏の企画第7回「京の七夕」 （京都府・京都市・京都商工会議所・京都市観光協会・京都文化交流コンベンションビューロー） 3. 京都歴史遺産寺院企画（JR東海） 4. 特別拝観企画の実施 （クラブツーリズムとの共同企画） 5. 京都府内北部・南部観光開発（京都府と連携） 6. 祇園白川ライトアップ事業

平成28年度 一般会計予算書

当期歳入総額 61,024,229 円

当期歳出総額 61,024,229 円

自 平成28年 4月 1日

至 平成29年 3月 31日

【歳入の部】

(単位：円)

款 項 目	科 目	本年度予算額	昨年度予算額	備 考
	前 年 度 繰 越 金	707,929	1,028,217	
1	会 費 収 入	3,200,000	3,200,000	
1	会 費 ・ 賛 助 金	3,200,000	3,200,000	
1	一 般 会 費	2,400,000	2,400,000	¥2,000
2	賛 助 会 費	800,000	800,000	¥3,000
2	活 動 協 力 金 収 入	29,050,000	29,050,000	
1	教 化 伝 道	29,000,000	29,000,000	
1	参 加 勤 行	17,500,000	18,000,000	
2	骨 灰 法 要	500,000	500,000	
3	墨 蹟 展	1,000,000	1,000,000	
4	護 摩 木 供 養	2,500,000	2,000,000	
5	花 ま つ り	2,500,000	2,500,000	
6	観 光 推 進	3,000,000	3,000,000	
7	世 界 文 化 遺 産	2,000,000	2,000,000	
2	広 報 ・ 出 版	50,000	50,000	
1	開 運 曆	50,000	50,000	
3	雑 収 入	31,000	1,931,000	
1	雑 収 入	31,000	1,931,000	
1	普 通 預 金 利 息	1,000	1,000	
2	雑 収 入	30,000	30,000	
3	退 職 準 備 預 金 取 崩	0	1,900,000	
	一般会計収入予算合計	32,281,000	35,209,217	
	寺院協力金	28,035,300	27,835,300	
	歳入合計	61,024,229	63,044,517	

【歳出の部】

(単位：円)

款 項 目	科 目	本年度予算額	昨年度予算額	備 考
1	事 務 局 費	33,340,000	33,590,000	
1	人 件 費	23,400,000	23,500,000	
1	職 員 俸 給	18,500,000	17,500,000	事務局員 4 名
2	厚 生 費	2,800,000	2,600,000	社会保険料等
3	通 勤 費	600,000	500,000	
4	退 職 準 備 金	1,500,000	1,000,000	
5	退 職 金	0	1,900,000	
2	管 理 費	7,240,000	7,490,000	
1	通 信 ・ 運 搬 費	700,000	800,000	郵便等
2	印 刷 費	350,000	300,000	コピー機リース料等
3	備 品 費	350,000	600,000	什器・車両関係

(単位：円)

款 項 目	科 目	本年度予算額	昨年度予算額	備 考	
	4	消 耗 品 費	200,000	100,000	
	5	借 館 費	1,848,000	1,848,000	事務所家賃
	6	水 道 ・ 光 熱 費	200,000	200,000	ガス・水道・電気
	7	旅 費 ・ 交 通 費	1,000,000	1,000,000	
	8	諸 会 負 担 金	900,000	900,000	全日仏・府宗連等
	9	弁 護 士 報 酬	432,000	432,000	
	10	会 計 士 報 酬	710,000	710,000	
	11	営 繕 管 理 費	50,000	100,000	
	12	そ の 他 諸 経 費	500,000	500,000	
	3	渉 外 ・ 旅 費	1,600,000	1,500,000	
	1	渉 外 費	800,000	800,000	
	2	慶 弔 費	500,000	400,000	
3	交 際 費	300,000	300,000		
4	諸 会 議 費	850,000	850,000		
1	単 仏 ・ 参 勤 会 議	150,000	150,000		
2	そ の 他 諸 会 議	700,000	700,000		
5	調 査 費	250,000	250,000		
1	資 料 収 集 費	250,000	250,000	調査・研究を含む	
2	活 動 経 費	27,250,000	28,250,000		
1	教 化 伝 道 活 動	18,750,000	18,950,000		
1	参 加 勤 行	8,200,000	8,400,000	参勤僧9名法礼等	
2	骨 灰 法 要	1,600,000	1,600,000		
3	墨 蹟 展	500,000	500,000		
4	護 摩 木 供 養	800,000	800,000		
5	観 光 推 進	1,500,000	1,800,000		
6	仏 教 諸 行 事 関 連	1,000,000	1,000,000		
7	花 灯 路 事 業	100,000	100,000		
8	花 ま つ り	4,200,000	4,000,000	こども花まつり・福祉施設配布等含む	
9	成 道 会	400,000	300,000		
10	永 年 勤 続 表 彰	300,000	300,000		
11	宝 物 展	150,000	150,000		
2	広 報 ・ 出 版 活 動	2,550,000	3,550,000		
1	暦 ・ 諸 出 版 他	200,000	200,000		
2	機 関 誌 発 行	2,300,000	3,300,000	年2回発行	
3	ホ ー ム ペ ー ジ 運 営 費	50,000	50,000		
3	そ の 他	5,950,000	5,750,000		
1	宗 教 と 政 治 問 題 研 究 活 動	1,500,000	1,500,000		
2	文 化 財 保 護 対 策 費	150,000	150,000	文化財の森	
3	世 界 文 化 遺 産	2,000,000	2,000,000		
4	明 日 の 京 都 補 助 金	200,000	200,000		
5	古 都 税 記 録 集 補 助 金	200,000	200,000		
6	古 典 の 日 フォ ー ラ ム 補 填 金	200,000	0		
7	時 局 対 策 金	100,000	100,000		
8	未 払 金 の 減 少	1,600,000	1,600,000	3年計画(3年目)	
	予 備 費	434,229	1,204,517		
	歳 出 合 計	61,024,229	63,044,517		

● 仏教会報告 ●

諸 会 議

〔平成二十七年〕

◆ 京都中央葬祭業協同組合通常総会

〔七月六日〕

京都中央葬祭業協同組合通常総会がホテルグランヴィア京都にて開催され、「平成二十七年事業報告及び収支決算承認並びに監査報告」「平成二十七年事業計画及び収支予算承認の件」「賦課金の額等及び組合借入金最高限度額決定の件」「任期満了による役員改選の件」について協議され承認された。

当会からは荒木元悦常務理事、長澤香静事務局長が出席した。

◆ 京都府宗教連盟委員総会

〔七月八日〕

京都府宗教連盟委員総会が立正佼成会天理教河原町大教会において開催された。

第一部の委員総会に次いで、第二部は「天理教の教えとその社会活動」と題し、天理大学おやさと研究所教授金子昭氏による記念講演がおこなわれ、その後正式参拝、第三部懇親会が行われた。宗教連盟では宗教間交流をテーマに総会を各宗教教団もち廻りで開催している。

当会からは荒木元悦常務理事、北川隆法理事、吉田清順評議員、中村覚祐監事、田村祐一師、長澤香静事務局長が出席した。



◆ 「京都文化フェア」推進委員会

〔七月二十二日〕

二〇二〇年東京五輪・パラリンピックの文化プログラムとしての開催を目指し、京都府、京都市、京都商工会議所が中心メンバーとなっている「京都文化フェア」推進委員会が京都ブライトンホテルにおいて開催され、府内全域で二〇一六年秋から四年半にわたり関連行事を開くとする同フェアの基本構想中間案について検討された。なお、「京都文化フェア」の名称は「京都文化力プロジェクト」に変更された。

当会からは荒木元悦常務理事が出席した。

◆ 自然環境文化推進機構理事会

〔七月二十二日〕

自然環境文化推進機構理事会が清水寺大講堂にて開催され、「入会規定」「平成二十七年事業計画案及び予算案」「事務局整備案」「第一回フォーラム事業案」について、協議、承認された。この「自然環境文化推進機構」は、自然環境を論ずる時、宗教心を背景とした歴史的経過を看過せずに取り組むことを基本としている。

当会からは長澤香静事務局長が出席した。

◆ 全日本仏教会厚生年金加入促進問題の経緯と現況に関する連絡会

〔七月二十三日・二十九日〕

全日本仏教会は厚生年金加入促進問題の経緯と現況に関する連絡会を東京会場・明照会館、京都会場・真宗大谷派宗務所の二会場にて開催した。日本年金機構による、宗教法人への厚生年金加入促進に関する動きに対応するため、経緯並びに現況などについて説明され、協議がおこなわれた。

当会からは櫻井岡郎氏、橋口玲弁護士、長澤香静事務局長の三名がそれぞれ出席した。

● 仏教会報告 ●

◆ 京都府「技の継承」事業専門家会議

〔八月四日〕

京都府は「技の継承」事業専門家会議を祇園祭山鉾連合会にて開催し、平成二十七年年度の事業内容について検討された。若手の職人の育成を主たる目的とし、神社庁、仏教会、山鉾連合会、学者等で構成されている。

当会からは長澤香静事務局長が出席した。

◆ 京都国際現代芸術祭組織委員会総会

〔八月十七日〕

京都国際現代芸術祭組織委員会は京都平安ホテルにて第二回総会を開催し、二〇一五年度の開催事業報告（案）収支決算（案）解散及び清算（案）について審議された。

当会からは坂口博翁理事が出席した。

◆ JR委員会

〔八月三十一日〕

（社）京都市観光協会によるJR委員会がウエスティン都ホテル京都において開催された。

〔平成二十六年年度事業報告並びに決算報告〕〔平成二十七年年度事業計画案並びに予算案〕について協議され、承認された。

当会からは、吉田清順評議員が出席した。

◆ 京都観光宣伝協議会総会

〔八月三十一日〕

JR東海「京都観光宣伝協議会」の総会がウエスティン都ホテル京都において開催された。〔平成二十六年年度事業報告・収支報告並びに監査

報告〕について、〔平成二十七年年度事業計画案・収支予算案〕について「役員改選の件」について審議された。

当会からは、吉田清順評議員が出席した。

◆ 宗教学者関係者南部地域・北部地域人権問題研修会

〔九月三日・四日〕

京都府と京都府宗教連盟共催による平成二十七年年度宗教学者関係者人権問題研修会が九月三日京都平安ホテル（南部会場）、九月四日にはみやび歴史の館中央公民館（北部地域）において開催された。

「畏われた命の意味について」―悲しみは愛しさと共に―と題し、全国自死遺族連絡会・代表田中幸子氏が講演を行い、南部、北部会場ともに宗教関係者や檀信徒らが多数参加し、熱心に聞き入った。

引き続き、啓発ビデオ「無関心ではいけない！障害者の人権」―障害者差別解消法を理解する―が上映された。

当会からは、荒木元悦常務理事、長澤香静事務局長が出席した。

◆ 京都テロ対策セーフティネット設立総会

〔十月二十三日〕

京都府警察本部は同警察本部大会議室において、京都テロ対策セーフティネット設立総会を開催した。昨今のテロをめぐる情勢の中、京都は国内外からの観光客の増加で、知名度も増し、テロの標的とされやすい都市となることが予想されるため、「日本一テロに強い国際都市京都」



● 仏教会報告 ●

をめざし、行政機関、民間事業者、関係機関・団体等オール京都体制による官民連携のテロ対策ネットワークを構築して、各種取組を実施していくために設立されたもので、総会では趣旨、規約について説明があり、承認された後、「テロの脅威と官民連携テロ対策」の研修会が開かれた。

当会からは吉田清順評議員が出席した。

◆ 第四十三回全日本仏教徒会議愛媛大会

〔十月三十日・三十一日〕

全日本仏教会は愛媛県ひめぎんホールにて第四十三回全日本仏教徒会議愛媛大会を二日間にわたり開催した。大会初日は、大正大学名誉教授で弘法大師の研究者、加藤精一・真言宗豊山派管長（全日本仏教会会長）の基調講演、吉川俊宏・四国八十八ヶ所霊場会会長や愛媛大学寺内浩教授らがパネルディスカッションをする「巡礼サミット」が開かれ、二日目は「悼む人」で知られる直木賞作家の天童荒太氏と俳優で画家の片岡鶴太郎氏の記念講演が行われた。

当会からは長澤香静事務局長が出席した。

◆ 第十五回国家と宗教研究会

〔十一月一日〕

国家と宗教研究会を大本山相国寺会議室にて開催した。

桐ヶ谷・創価大学名誉教授（憲法学）が自民党による「日本国憲法改正草案」を検証する「公益・信教の自由を中心に」と題し講演。自民党の改憲草案について、基本的人権より「公益及び公の秩序」、個人より集団を尊重し、公益・公



序を害する表現や結社の禁止は個人の「内心」の問題につながる恐れがあると指摘。戦前の治安維持法と同じ効果を持つことを示唆し、宗教の統制・弾圧に回帰する危険性があると論じた。また、政教分離の緩和について「社会的儀礼又は習俗的行為の範囲を超えない」宗教的活動を国などが行えるように狙うもので、国家神道復活の危険性についても強く警告した。

◆ 全日本仏教会理事會

〔十一月六日〕

第十二回理事會が京都・真宗大谷派「しんらん交流館」にて開催された。議案事項として、「第三十二期会長・福会長の推戴について承認を求める件」について審議された。また、「平成二十八年年度事業大綱」「平成二十八年年度予算大綱」について賛同を求める件について協議され、続いて財団創立六十周年記念事業の進捗についての報告、各部の報告がなされた。

当会からは長澤香静事務局長が出席した。

◆ 第七十一回宗教学会

〔十一月七日〕

第七十一回宗教学会が創価大学にて開催された。「宗教と法の現在―オウム真理教事件後の二十年」をテーマに総会を挟んで、午前・午後 の二部構成でシンポジウムが開かれ、パネルディスカッションも行われた。

当会からは長澤香静事務局長が出席した。

◆ 花灯路・京の七夕幹事會

〔十一月十一日〕

京都・花灯路推進協議会第二回幹事會が京都商工会議所にて開催さ

● 仏教会報告 ●

れ、二〇一五事業計画（案）、嵐山花灯路全体指揮・責任体制及び通信連絡体制（案）、嵐山花灯路オーブニングイベント（案）について協議され、主要業務発注状況、証明器具等貸出状況について報告された。続いて京の七夕実行委員会第三回幹事会が開催され、平成二十七年事業報告について協議された。協会からは荒木元悦常務理事が出席した。

◆ 宗教者駅伝日本実行委員会

〔十一月二十日〕

宗教者駅伝日本実行委員会が立正佼成会京都普門館にて開催された。二〇一六年二月開催について、大会前日の祈りの時間、予算と支出の現状、広報等について審議された。当会からは長澤香静事務局長が出席した。

◆ 宗教法人関係者人権問題研修会

〔十一月二十六日〕

京都府、京都府宗教連盟と同和問題に取り組む京都府宗教者連絡会議（京都同宗連）共催による平成二十七年年度宗教法人関係者人権問題研修会が京都商工会議所において開催された。

「同和対策審議会答申五十年、部落地名総監四十年―部落差別の今を考える」と題し、安田茂樹氏（部落解放同盟京都府連合会副委員長）による講演、また、「天台宗の取り組み」について活動報告が行われた。

続いて、啓発映画「私の中の差別意識



部落差別問題から考える」が上映された。当会からは、荒木元悦常務理事、長澤香静事務局長が出席した。

◆ 文化庁等移転推進に関する協議会

〔十二月二十四日〕

文化庁等移転推進に関する協議会がホテルグランヴィア京都にて開催された。

「文化庁等移転推進に関する協議会」規約の改正、経過報告、文化庁移転に関する要望について意見が交わされ、国へ移転の要望をすることが決定された。この会合から、仏教会と神社庁が協議会に加わるようになった。

当会からは長澤香静事務局長が出席した。

〔平成二十八年〕

◆ 全日本仏教会理事会

〔二月二十六日〕

全日本仏教会理事会在東京・明照会館にて開催された。

協議事項として、財団設立六十周年記念事業テーマ（案）について賛同を求める件について、議案事項として「平成二十八年度事業計画（案）」「平成二十八年度収支予算（案）」について承認を求める件について審議され、全会一致で賛同、承認された。また、「大蔵経テキストデータベース」「第三十一期財政審議会、社会・人権審議会、国際交流審議会答申内容」「広報事業及び広報委員会に関する件」について報告され、最後に各部報告がなされた。当会からは、長澤香静事務局長が出席した。

● 仏教会報告 ●

◆ 京都花灯路推進協議会・幹事会

〔二月十二日〕

京都花灯路推進協議会・幹事会が東山いきいき市民活動センターにて開催された。

まず嵐山花灯路二〇一五について、第八回創作花灯デザインコンペ審査結果、照明器具等貸出状況について報告され、続いて東山花灯路二〇一六事業計画(案)東山花灯路全体指揮・責任体制及び通信連絡体制(案)オープニングイベント(案)平成二十八年年度京都・花灯路事業開催日程(案)主要業務の発注(案)について協議された。

当会からは、荒木元悦常務理事が出席した。

◆ 全日本仏教会加盟団体顧問弁護士連絡会

〔二月十二日〕

全日本仏教会が、加盟団体顧問弁護士連絡会を東寺にて開催した。今年度は「厚生年金加入問題」をテーマに講師による講演と各顧問弁護士と法律的観点から議論を深め実務担当者とともに問題の検証を行った。

当会からは、橋口玲顧問弁護士、長澤香静事務局長が出席した。

◆ 人権問題連絡協議会

〔二月十八日〕

全日本仏教会が東京・明照会館において人権問題連絡協議会を開催し、朝鮮半島出身者遺骨返還問題、昨年末に官房長長官に要望書を手交した後の遺骨問題の進捗状況について政府機関から担当者を招聘し、説明を受けた。

当会からは、長澤香静事務局長が出席した。

◆ 京の七夕実行委員会

〔三月三日〕

京の七夕実行委員会が京都商工会議所において幹事会を開催し、平成二十八年年度京の七夕事業日程、今後の方向性について協議を行った。

当会からは、荒木元悦常務理事が出席した。

◆ 全日本仏教会財団創立六十周年事業勸募部会

〔三月八日〕

全日本仏教会財団創立六十周年事業実行委員会が東京・明照会館にて第三回勸募会を開催した。加盟団体協力金・特別協賛金の状況について報告があり、平成二十八年年度の特別協賛金勸募について協議が行われた。

当会からは、長澤香静事務局長が出席した。

◆ 医療と宗教を考える研究会

〔三月十四日〕

医療と宗教を考える研究会が京都東急ホテルにて開催された。提言集をまとめたから一年半、高齢化が進みより身近になったこの問題について意見交換がおこなわれた。

当会からは、長澤香静事務局長が出席した。

◆ 京都市観光協会理事会

〔三月十六日〕

京都市観光協会理事会が、京都センチュリーホテルにて開催された。

議案事項として「平成二十八年度事業計画案」「平成二十八年年度予算案」「平成二十八年度資金調達及び設備投資の見込み」「平成二十八年年度資金運用執行方針及び計画案」「平成二十八年年度定時総会開催」「JRR委

● 仏教会報告 ●

員会の委員補欠選任案」について審議された。
当会からは、荒木元悦常務理事が出席した。

◆「古都京都の文化財」ネットワーク会議

〔三月十七日〕

明日の京都文化遺産プラットフォーム主催の「古都京都の文化財」ネットワーク会議が立命館大学朱雀キャンパスにて開催された。「京都の世界遺産が抱えるバッファゾーンの課題」についてバッファゾーンとは何かを知り、その役割と今後の在り方を検討する事を目的として、京都市文化財保護課から説明を受け質疑応答がなされた。
当会からは、長澤香静事務局長が出席した。



◆京都未来の匠「技の継承」事業の実施に係る専門家会議

〔三月二十五日〕

京都府商工労働観光部染織・工芸課による京都未来の匠「技の継承」事業の実施に係る専門家会議が山鉾連合会にて開催され、平成二十七年事業報告、平成二十八年度の候補物件の検討がなされた。
当会からは、長澤香静事務局長が出席した。

◆京都文化交流コンベンションビューロー評議員会

〔三月二十五日〕

公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー評議員会が、京都商工会議所にて開催された。

議案事項として、「理事の選任に関する件」「平成二十八年度事業計画に関する件」「平成二十八年度収支予算に関する件」「平成二十七年収支予算の補正に関する件」について審議された。続いて、「名誉顧問・顧問の再任」「就業規定の一部改正」「平成二十七年の業務実施状況」について報告された。

当会からは、荒木元悦常務理事が出席した。

◆文化遺産を未来につなぐ森づくりの為に有識者会議理事会

〔四月十八日〕

文化遺産を未来につなぐ森づくりの為に有識者会議は理事会を東京スクワール麹町にて開催し、今年度の見学会、シンポジウム等の開催について協議された。

当会からは、長澤香静事務局長が出席した。

◆第九十一回理事会

〔四月二十六日〕

第九十一回理事会が、京都仏教会会議室にて開催され、宗教法人備え付け書類提出拒否による過料制裁に係る今後の対応について協議された。冒頭、事務局より経過説明があり、続いて橋口玲顧問弁護士より宗教法人法第二十五条をめぐる問題についての説明を受けた後議論が交わされた。個々の対処のしかたは違ってもこれまで同様書類提出拒否の姿勢を貫くことで意見が統一された。



● 仏教会報告 ●

◆ 全日本仏教会理事会

〔五月十九日〕

全日本仏教会理事会が東京・明照会館にて開催された。議案として「平成二十七年事業報告」「平成二十七年決算」「評議員会の招集及び開催」について審議され、異議なく了承された。また、「法務執行相談に関する協議会開催について賛同を求める件」について協議された。

当会からは、長澤香静事務局長が出席した。

◆ 社会を明るくする運動京都府推進委員会

〔五月二十日〕

第六十六回「社会を明るくする運動」京都府推進委員会が京都平安ホテルにて開催された。

第六十五回「社会を明るくする運動京都府推進委員会実施結果報告・収支決算」第六十六回「社会を明るくする運動京都府実施要綱(案)」行事計画(案・収支予算(案))について審議された。

引き続き、構成機関・団体から取組発表及び今後の活動の報告等が行われた。

当会からは、吉田清順評議員が出席した。

◆ 第一回 KNERC(ネルク)定時理事会

〔五月二十四日〕

NPO法人上賀茂神経リハビリテーション教育研究センター(KNERC)の定時理事会がホテルグランヴィア京都にて開催された。

議案事項として「理事長及び理事センター長の互選の件」「理事センター長の給与の件」「事業計画及び活動予算の件」「職務権限(施行細則)を定める件」について審議された。

当会からは、長澤香静事務局長が出席した。

◆ 第九十二回理事会

〔六月三日〕

第九十二回理事会が、京都仏教会会議室にて開催され、以下の議案について承認された。議案第一号平成二十七年事業報告及び平成二十七年決算報告の承認を求める件。

議案第二号平成二十八年事業計画案及び平成二十八年年度予算案の承認を求める件。

議案第三号評議員の補充等、役員の人事についての件。

議案第四号その他

宗教法人備え付け書類提出拒否による過料制裁に関わる今後の対応について、本年度音舞台、古典の日推進事業の協賛、経済センサスの周知、今年度の墨跡展、京都府伝統産業人材育成事業、第七回京の七夕、文化庁京都移転、京都きものパスポート、災害救援金について報告された。

◆ 京都府宗教連盟常任委員会

〔六月三日〕

京都府宗教連盟は、常任委員会を立正佼成会京都普門館にて開催した。

平和祈念の黙祷、委員長挨拶の後、平成二十八年委員総会開催要項(案)について検討され、次に議案として「平成二十七年事業報告と会計決算・会計監査報告」「平成二十八年事業計画と予算案」が審議され、異議なく承認された。

続いて「平成二十八年度本部役員」「平成二十八年年度深草墓園慰霊祭奉仕団



● 仏 教 会 報 告 ●

体確認」「常任委員の交代」について報告された。
当会からは、荒木元悦常務理事、中村寛祐監事、長澤香静事務局局長が出席した。

◆ 都・花灯路推進協議会幹事会

〔六月七日〕

京都・花灯路推進協議会幹事会が東山総合庁舎にて開催された。
議題として、「東山花灯路」「二〇一六」「平成二十七年灯りの催事奨励事業」についての報告がなされ、「平成二十八年度体制」「平成二十七年年度収支決算」「平成二十八年度事業計画及び収支予算」「平成二十八年度事業年間スケジュール」「主要業務の発注」「第九回創作行灯デザインコンペ」について協議された。
当会からは、荒木元悦常務理事が出席した。

◆ ICOM 京都大会二〇一九組織委員会 第一回会議

〔六月九日〕

二〇一九年に京都市で開催される ICOM（国際博物館会議）京都大会組織委員会の第一回会議が東京国立博物館平成館にて開催された。
議題として、ICOM 京都大会二〇一九の概要、組織委員会構成・役割等、組織委員長、副委員長の選任、今後のスケジュールについて協議された。
当会からは、長澤香静事務局局長が出席した。

◆ 京都市観光協会定時総会・理事会

〔六月十四日〕

京都市観光協会定時総会がウエスティン都ホテル京都にて開催された。

議案事項として、「平成二十七年事業報告・決算報告」「役員選任」について審議された。

また、「平成二十八年度事業計画・予算案」について報告された。引き続き、観光事業関係者表彰が行われた。

総会終了後、理事会が開催され、「代表理事の選定及び副会長の職務代行の順序」「専務理事・常務理事の選定」「委員会委員の選任」「顧問・相談役・参与の選任」について審議された。

当会からは、荒木元悦常務理事が出席した。

◆ 平成二十八年度理事・評議員合同役員会

〔六月二十一日〕

平成二十八年度理事・評議員合同役員会を承天閣美術館にて開催し、次の議案が承認された。

議案第一号平成二十七年事業報告及び平成二十七年決算報告の承認を求める件。

議案第二号平成二十八年度事業計画案及び平成二十八年度予算案の承認を求める件。

議案第三号役員改選及び理事補充について

議案第四号その他

本年度音舞台、経済センサスの周知について、今年度の墨跡展について、京都府伝統産業人材育成事業、第七回京の七夕、災害募金、文化庁京都移転、着物パスポートについて報告された。また「古都税問題の証言」記録集での洗建氏の原稿が紹介された。



行 事

〔平成二十七年〕

◆舞鶴引揚記念館へシベリア抑留品贈呈

〔七月三日〕

この日、有馬頼底理事長は舞鶴市役所を訪問し、多々見良三市長と親しく会談した。有馬理事長は「シベリア抑留の事実経過が風化しつつある中、『人類の記憶遺産』認定に向けて一丸となって努力するとともに、私の知人である森本寂遷氏の父が記したシベリア抑留記の原本をはじめ、貴重な資料を贈呈致したい。何とぞ後世まで語りついで欲しい」と述べた。多々見市長は同席した森本氏へ謝意を表明し、引揚記念館の今後の充実と人類の記憶遺産認定を勝ちとり、世界にアピールすることを誓った。

◆第六十五回法隆寺夏季大学

〔七月二十七日〕

法隆寺において七月二十六日から四日間夏季大学が開催された。法隆寺は聖徳太子の理想に基づく「一仏大乘」の聖地にして、日本仏教の源流でもあり「法隆学問寺」と称されることから、全国から多数の方々の参加があり、毎年夏季に開催され今回で六十五回目となる。

今回、当会が推薦した黄檗宗管長大本山萬福寺住持近藤博道師が「第一義」と題し第四講を務めた。会場は溢れる人々で満堂となり、熱心にメモをとる姿が多く見られた。

◆京の七夕開会式

〔八月一日〕

「一年に一度願い事をする」という七夕にちなんで「願い」をテーマに京都の新たな夏の風物詩「京の七夕」が本年も開催された。

六回目を迎えた今夏も、堀川・鴨川の川辺は幻想的なイルミネーションで彩られ、連日多くの来場者が短冊に願い事を書き、清水寺においての神仏合同行事に結願することに想いを託した。

期間中、清水寺をはじめ高台寺・六道珍皇寺・清明神社・貴船神社・八坂神社の各寺社において特別拝観等行われた。

◆立正校成会主催「宗教の対話／対話の宗教」

〔八月二日〕

立正校成会主催の「『宗教の対話／対話の宗教』」新しいモノガタリをつむぐ集いが開かれた。会員をはじめ宗教、政治、学術、メディア各界の五千人が参加し、宗教間対話の歴史や現状、今後の展望について、映像や各界の識者からのコメントを交えても進行され、諸宗教が「対立」するのではなく「対話」するものへと変わり、教育等の他分野との対話・連携が進んでいることも紹介された。

当会からは、長澤香静事務局長が出席した。

◆念法真教立教九十周年報恩大法要

〔八月三日〕

念法真教立教九十周年報恩大法要が総本山小倉山金剛寺にて営まれ、各宗派、教団関係者が多数参加し、盛大に大法要が執行された。

当会からは、長澤香静事務局長が参加した。



● 仏教会報告 ●

◆ たなばた願文お焚き上げ・孟蘭盆会採燈大護摩供法要

〔八月十六日〕

京都府神社庁と京都仏教会による「たなばた願文お焚き上げ」が清水寺南苑にて執り行われた。

聖護院門跡宮城泰年門主を導師に、吉田神社三木善則宮司を斎王に、神職と修験者が出仕し、全国から寄せられた短冊（たなばた願文）のうち約一万枚が盛大に焚き上げられ、それぞれの思いが託された。

続いて、本年度第二十六回を迎えた恒例の当会主催孟蘭盆会採燈大護摩供法要が営まれた。



本年も福祉施設で作成された護摩木約二万本に皆様の願いが書かれ、お盆送り火のこの日に供養された。願いを書いた護摩木を自らの手で火中に投じた参拝者らは、それぞれの思いを込めて熱心に手を合わせていた。その列は次から次へと切れることなくいつまでも続いた。

◆ 琳派四〇〇年記念二十世紀琳派田中一光展開会式

〔八月十八日〕

DNP大日本印刷主催の「琳派四〇〇年記念二十世紀琳派田中一光」展の開会式が京都d dギャラリーにて開催された。

琳派から大いに感化されたと言われる田中一光氏のデザイン。また、琳派の一員として後世へ伝えられるべき存在ともいわれている。琳派四〇〇年を記念するこの年、収蔵品展が開催された。

当会からは、有馬頼底理事長、長澤香静事務局長が出席した。

◆ 清水寺門前会

創立三十周年記念式典

〔九月五日〕

清水寺門前会創立三十周年記念式典がリーガロイヤルホテル京都にて開催された。古都税問題が勃発する中、清水寺門前会は発足した。寺と一体となって問題解決に奔走し、その後清水寺ご開帳記念行事や、京都初の夜の拝観の開始が花灯路事業等にも様々に寄与し、現在に至っている。

当会からは、有馬頼底理事長、長澤香静事務局長、和田野英子事務局長、中尾香代事務局長が出席した。

◆ 堀場雅夫氏お別れの会

〔九月九日〕

堀場製作所の創業者で、七月に九十歳で亡くなった堀場雅夫氏のお別れの会が国立京都国際会館で開かれ、約五千人が参列し生前の功績をしたのんだ。長い友人関係にある有馬頼底理事長が参列した。

◆ 京都市深草墓園秋季慰霊祭

〔九月十二日〕

京都市主催の秋季慰霊式典と遺族会主催の同慰霊法要が開催された。慰霊式典では、門川大作京都市長の式辞にはじまり、京都市議会議長及び遺族代表の弔辞、遺族代表による献花が執り行われた。引き続き行われた慰霊法要では、真言宗御室派総本山仁和寺の奉仕による法要が行われ、読経に合わせて、約千人の



● 仏教会報告 ●

遺族が次々と焼香を行い、故人の冥福を祈った。

なお、京都市深草墓園は京都市のお墓として昭和三十三年七月に開設され、永年納骨と短期納骨の取り扱いとして市民の利用に供しており、現在では約九千体の御霊が宗教宗派の区別なく合祀されている。今回で百十五回を数える。

当会からは、長澤香静事務局長が出席した。

◆ 泉涌寺音舞台

〔九月十二日〕

二十八回を迎える「音舞台」は現在、当会及び毎日放送主催、大和証券グループの協賛、日本航空の協力を頂きシリーズ化されて今日に至っている。

今では古都における文化的価値のある催しとして広く知られるところとなった。

本年は御寺泉涌寺で開催され、佛殿前の特設ステージでは女優の佐久間良子氏が進行役を務め、イルミネーション芸術監督兼首席指揮者西本智美氏率いるイルミネーションフィルハーモニーオーケストラの演奏をバックに「森と生命」をテーマにオーストラリアのサラ・オレインの歌声と俳優・歌手の石丸幹二氏の力強い歌声が響きわたり、続いてイルミネーション合唱団と同バレエ団の歌と華麗な舞、最後に京舞井上流五世家元井上八千代氏がバレエ団と共に庄巻の舞を披露し、二千名の観衆を魅了した。

◆ 日本宗教連盟主催宗教法人の公益性に関するセミナー

〔九月十四日〕

日本宗教連盟主催の宗教法人の公益性に関するセミナーが東京増上寺にて開催された。講師に水町雅子弁護士（前内閣官房社会保障改革担当室参事官補佐）、木村匡成公認会計士（日本宗教連盟監事）を招き、社会保障・税番号制度の概要について、またマイナンバー制度の対応について、宗教法人の実務対応の問題点を探った。

当会からは、長澤香静事務局長が出席した。

◆ 建仁寺「桑」フォーラム

〔九月二十七日〕

NPO法人京都マルベリー協会が大本山建仁寺において桑の魅力京都から発信しようと「桑」マルベリーフォーラムを開催した。

「喫茶養生記」でお茶同様桑の効用などを伝えた建仁寺栄西禪師の遺徳を顕彰しようと今年で十一回目。

建仁寺派庶務部長浅野全雄師が「喫茶養生記」に書かれた桑の効用や食し方を紹介した。

当会からは、荒木元悦常務理事が出席した。

◆ 秋季彼岸焼骨灰供養法要

〔九月二十八日〕

秋彼岸にあたり浄土宗西山禅林寺派総本山・永観堂禅林寺本堂において京都仏教会、京都中央葬祭業協同組合の共催による恒例の秋彼岸供養法要が営まれた。

浄土宗西山禅林寺派久我儼昭宗務総長の法話の後、浄土宗西山禅林寺派管長中西玄禮猷下導師のもと山内ご出仕により彼岸供養法要が厳修された。

爽やかな秋晴れのもと、約千五百人もの参拝者を迎え、御影堂に溢れるほどの列は庭まで長く続き、この半年間にお亡くなりになられた故人をしのお焼香の列は長く続いた。



◆ 墨蹟展開催

〔十月一日～十月七日〕

東京京都館に於いて墨蹟展を開催した。

● 仏教会報告 ●

東京駅に近く、多くの人が訪れ、熱心に書に親しむ姿が見られた。日本書道のユネスコ文化遺産登録の動きがある中、今後も墨跡に親しむ機会を増やし、この仕事を継続して参る所存である。

◆ 第三十九回
日本死の臨床研究会年次大会

〔十月十一日〕

第三十九回日本死の臨床研究会年次大会が岐阜県長良川国際会議場にて開催された。「自分らしく逝くために」～清流の国岐阜で語ろう～をテーマに、山田貴敏氏（Drコトロー診療所）原作者、玄侑宗久氏（福高福聚寺住職）、石井光太氏（遺体）原作者を講師に迎え、シンポジウム・パネルディスカッション・市民講座が行われた。

当会からは、長澤香静事務局長が出席し、当会が医療と宗教を考える研究会で作成した「いのちそして死」の冊子を参加者に配布した。

◆ 京都市自治記念式典

〔十月十五日〕

京都市が京都コンサートホールにて「自治記念日」に記念式典を開催し、京都市の発展に貢献したとして、当会が「京都西安友好都市提携四十周年記念特別表彰」を授与された。当会から吉田清順評議員が出席した。

◆ 明日の京都文化遺産プラットフォーム主催
第五回フォーラム

〔十月十八日〕



明日の京都文化遺産プラットフォームは立命館大学朱雀キャンパスにて第五回フォーラムを開催した。パネリストに高橋英一氏（南禅寺・瓢亭十四代当主）高木聖雨氏（書家）市田ひろみ氏（服飾評論家）らを招き、松浦晃一郎氏明日の京都文化遺産プラットフォーム会長がコーディネーターをつとめ、日本の美手と技の世界をテーマに日本の繊細な生活文化を支えてきた「手の技」に焦点をあて、日本独自の文化遺産として再検証した。当会からは、長澤香静事務局長が出席した。

◆ 萬福寺近藤博道管長晋山式

〔十月二十七日〕

黄檗宗大本山萬福寺第六十二代堂頭（住持）に就任された近藤博道管長の晋山式が萬福寺に於いて、各宗派管長や宗務総長、関係者が多数参加する中、宗祖・隠元禪師以来の古式にのっとり、盛大に営まれた。当会からは、長澤香静事務局長が列席した。

◆ 文化遺産を未来につなぐ
森づくりの為に
有識者会議主催シンポジウム

〔十一月八日〕

文化遺産を未来につなぐ森づくりの為に有識者会議主催のシンポジウムが立命館朱雀キャンパスホールにて明日の京都文化遺産プラットフォームと共催で開催された。「二百年先の文化財を私たちは守れるのだろうか」をテーマに後藤治氏



● 仏教会報告 ●

〔工学院大学常務理事・建築デザイン学科教授〕岡橋清元氏（吉野・清光林業株式会社取締役会長）の基調講演の後、パネラーとして西中道氏（石清水八幡宮禰宣）速水亨氏（速水林業代表）が加わり、加藤鐵夫氏（日本質バイオマスエネルギー協会副会長）がコーディネーターをつとめ文化財補修用材の持続的な確保についてディスカッションが行われた。当会からは、長澤香静事務局長が列席した。

◆ 相国寺東京別院落慶法要

〔十一月十六日〕

相国寺東京別の方丈・客殿が四年二か月をかけて完成し、落慶法要が営まれた。これにより相国寺の首都圏布教の拠点が確立されたこととなる。法要には僧俗約百人が参列。江戸消防記念会による木遣りが披露された後、有馬頼底管長が祝語を唱え、開眼諷経、落慶諷経が執り行われた。当会からは、長澤香静事務局長が列席した。

◆ 第一回自然環境文化推進フォーラム

〔十一月二十三日〕

第一回自然環境文化推進フォーラムが清水寺大講堂にて開催され、千年のときを超えて世界遺産の地で明日の環境を考えるをテーマに山折哲雄氏（宗教学者）の基調講演、秀田智彦氏（環境省近畿地方環境事務所所長）の環境講話の後、山折氏がコーディネーターをつとめ、パネリストに小笠原敬承斎氏（小笠原流礼法宗家）・重森千青氏（作家・田中利典氏（金峯山寺長職、林南院住職）

田丸みゆき氏（笹屋伊織十代目女将）・平井誠一氏（西利代表取締役社長）を迎えて、パネルディスカッションが行われた。また、成就院（月の庭観賞）、池坊美佳氏（華道家）によるいけばなの実演お抹茶接待などが開かれた。

当会からは、長澤香静事務局長が出席した。

◆ 大阪府仏教徒大会

〔十一月二十五日〕

大阪府仏教会結成五〇周年記念の仏教徒大会がホテル日航大阪にて開かれた。青山俊とう董師（曹洞宗愛知専門尼僧堂堂長）が「今ここをどう生きる―人生を円相で考える」と題して講演がおこなわれた。当会からは、荒木元悦常務理事、長澤香静事務局長が出席した。

◆ アースパレード二〇一五京都 行進

〔十一月二十九日〕

今年十二月にパリで開催される国際会議 COP二で温暖化を止める国際的な新しいルールが決められる前に世界中で行われる大規模なアクションに合わせ、「アースパレード二〇一五」が日本でも東京で、京都でも円山公園野外音楽堂にて集会が開かれ、京都市役所までパレードを行った。このアースパレードについては京都府宗教連盟を通じ、当会も多くの方々の参加を呼び掛けた。



◆ 京都府肖像写真技能士会写真展

〔十二月一日〕

京都府肖像写真技能士会が肖像写真の啓蒙とともに京都で活躍されている方々を紹介し、その「人間力」を表現することを目的とし毎年一回の開催を目指し写真展を開催した。「翔覧」と題し、第一回は「僧侶」をテーマとして当会の常務理事である聖護院門跡門主・宮城泰年師も開会にあたり、肖像のモデルになるとともに記念法話を行った。

● 仏教会報告 ●

◆ 成道会・永年勤続住職表彰

〔十二月七日〕

お釈迦さまのお悟りになられた遺徳を偲び、当会主催による成道会が総本山泉涌寺にて厳修された。

泉涌寺上村貞郎長老御導師、御一山僧侶の出仕、当会役員随喜のもと舍利殿にて厳かに法要が営まれた。

続いて永年勤続五十年住職表彰の知事表彰、三十年理事長表彰が行われ、京都府よりそれぞれに賞状と記念品が授与され、表彰者を囲んで全員で記念撮影を行った。

表彰式の後には本坊客殿にて祝宴が営まれ、表彰者を代表して五十年表彰の森泰健師から謝辞が述べられた。尚、表彰を受けられた方々は次のとおり。



● 永年勤続住職知事表彰者（五十年）

森 泰健師	久昌寺	曹洞宗
榊原慶憲師	真宗院	浄土宗西山深草派
長谷川観雄師	妙心寺	浄土宗西山深草派

● 永年勤続住職会長表彰者（三十年）

中西随功師	観世寺	西山浄土宗
神田光晴師	祐楽寺	西山浄土宗
水野輝久師	西念寺	西山浄土宗
大高義教師	弥勒寺	西山浄土宗
笹岡泰雲師	宝泉寺	曹洞宗
佐藤保秀師	妙楽寺	曹洞宗
岡本教傳師	長福寺	浄土宗西山禅林寺派
木原法道師	千手院	高野山真言宗
朝倉義寛師	来迎院	高野山真言宗

◆ 京都・嵐山花灯路開幕式

〔十二月十一日〕

この日から十二月二十日までの十日間、嵯峨・嵐山界隈で「京都・嵐山花灯路」が開催された。

この「嵐山花灯路」は京都の活性化と観光振興に寄与するため二十一世紀の新たな風物詩としての「京都・花灯路」とと、京都府、京都市、京都商工会議所、京都文化交流コンベンションビューロー、京都市観光協会、京都仏教会などが参画して京都花灯路推進協議会を結成、すでに定評となった「東山花灯路」に続く事業で今年で十一年目。

期間中各種催しが開催され、また、周辺社寺においても夜の特別拝観も行われた。花灯路は午後五時から午後八時三十分の間点灯され、期間中一三九万人の観光客らが初冬の夕暮れ散策を楽しんだ。



◆ 文化遺産防災国際シンポジウム

〔十二月十三日〕

国立文化財機構は文化財防災ネットワーク推進事業の一環として「文化遺産防災国際シンポジウム―文化遺産を大災害からどう守るか―ブルーシールドの可能性―」を京都国立博物館にて開催した。

基調講演、海外報告、国内報告、ディスカッションが行われた。当会からは、長澤香静事務局長が出席した。

◆ 青蓮院門跡尊融徳心院望擬講大僧正 慈洽大和尚三回忌法要

〔十二月十四日〕

この日、当会の会長を永年に渡り、務められた青蓮院門跡名譽門主故

● 仏教会報告 ●

東伏見慈治師の三回忌法要が厳修された。当会は、古都税問題、京都府仏教会、京都市仏教会の統合、景観問題等様々な問題の先頭に立ち向かわれた姿勢に心から敬意を表すものである。

〔平成二十八年〕

◆ 西陣織工業組合新年総会

〔二月六日〕

西陣織工業組合の、平成二十八年年度新年会総会が西陣織会館にて開催された。

同組合は、明治十六年に西陣織物業組合として発足。また、昭和四十八年、旧西陣三組合（西陣織物業組合・西陣着尺織物業組合・西陣毛織工業組合）が合併。この新年総会は、知事、市長をはじめ各界の代表者らが参集し、毎年盛大に行われる。

当会からは、荒木元悦常務理事、長澤香静事務局長が出席した。

◆ 京都伝統芸振興財団創立二十周年記念式典

〔二月十五日〕

京都伝統芸振興財団の創立二十周年記念式典がウエスティン都ホテル京都にて開催された。

「一二七億年の宇宙から見た京都」と題し、京都造形芸術大学学長・尾池和夫氏による講演の後、観世流能楽師・十世片山九郎衛門氏の能楽祝舞「高砂」が披露された。

当会からは、荒木元悦常務理事が出席した。

◆ 「聖護院さんと山伏」京都歴史遺産対談

〔二月二十日〕

東海旅客鉄道（株）の特別協賛を得て、明日の京都文化遺産プラットフォーム

フォーラム・京都市・京都市観光協会・京都文化交流コンベンションビューローの後援のもと、当会主催による京都歴史遺産対談「聖護院と山伏」が開催され、聖護院門跡門主宮城泰年師とノンフィクション作家秋尾沙戸子氏による対談が行われ、修験山伏の信仰や自然観の中から、現代人が忘れてきている大切な人間らしさを模索する対談となった。

聖護院宗務本所仏間が会場となり、百二十名余りの参加者は熱心に耳を傾けた。この講演に伴い一夜造御学問所・宸殿・書院の特別拝観も行った。

◆ 明日の京都文化遺産プラットフォーム主催緊急フォーラム

〔二月二十二日〕

明日の京都文化遺産プラットフォーム主催のフォーラムは「文化庁を京都に」をテーマに「文化庁の京都移転をめぐって」と題し、村井康彦氏（国際日本文化研究センター名誉教授）の基調講演が開催された。その後、「日本文化の魅力を京都から世界へ発信するために」と題し、パネルトークが行われ、山折哲夫氏や池坊由紀氏らが京都移転の必要性と意義について述べ、松浦晃一郎氏がアピール文を読み上げ、参加者全員で採択し閉会となった。

◆ 大阪仏教同友会新年総会

〔二月二十三日〕

大阪仏教同友会の新年総会が大阪リーガロイヤルホテルにて開催された。



● 仏教会報告 ●

議案事項として、「平成二十七年事業報告」「平成二十七年決算報告」「会計監査報告」について審議された。

当会からは、荒木元悦常務理事が出席し、大阪の寺院のみならず、仏教の信者団体各位とも懇親を深めた。

◆ インド共和国記念日レセプション

〔二月二十七日〕

インド共和国記念日レセプションが帝国ホテル大阪にて開催された。モディ氏が首相となられ、初の外国訪問に日本を選び、特に京都の仏教本山管長との懇談の場を望まれた。そうした経緯から毎年当会もレセプションには積極的に出席している。

当会からは、森泰長理事、長澤香静事務局長が出席した。

◆ 天台座主半田孝淳大僧正本葬

〔二月二十九日〕

昨年十二月十四日に九十八歳で遷化された半田孝淳・第二五六世天台座主の本葬が天津市の天台宗務庁にて営まれた。諸宗教の宗派代表等国内外から約千二百人が参列して、大雨の中、世界平和、核廃絶を強く願い、諸宗教対話に尽くした故人を偲び別れを惜しんだ。

◆ 會津八一がつなぐ新潟と奈良・京都との交流の集い

〔二月六日〕

「會津八一がつなぐ新潟と奈良・京都との交流の集い」が京都・白沙村荘にて開催され、「古都の賛美者たち」と題し、新潟市會津八一記念館館長・神林恒道氏による文芸講演等が行われた。

当会からは、有馬頼底理事長、長澤香静事務局長が出席した。

◆ 西山浄土宗和歌山県南部十組学習会

当会顧問弁護士講演

〔二月七日〕

西山浄土宗和歌山県南部十組の寺院学習会・薬師寺（和歌山県南部町）に当会顧問弁護士橋口玲氏が招かれ、「寺院が直面している諸問題」と題し、講演を行った。寺院と檀信徒、一般参拝者、墓地参拝者との諸問題や今後住職として必要な法律知識等、限られた時間の中で、聴衆は熱心に耳を傾けていた。

当会からは、長澤香静事務局長も参加した。

◆ 光の音符主催第二十二回演奏会

〔二月十四日〕

光の音符主催第二十二回演奏会が京都府立府民ホールアルテイで開催された。

障害のある人ない人、幼時からお年寄りまで誰もが楽しめるコンサートを目的とし、今回は、光の音符の日本での活動とインドでの活動をむすぶ初めての試みとして、インド人のダンス指導者による子供たちへのダンス指導等、宗教や文化、立場の違いを超えた楽しいコンサートとなった。

当会も、立ち上げから応援し、インドムンバイの施設訪問も行った。

◆ 宗教者駅伝祈りの時間・表彰式

〔二月二十日・二十一日〕

国内外の様々な教派の宗教者が一本のたすきをつなぎ世界平和と東日本震災復興を願う宗教者駅伝が京都マラソンに併せて行われた。また、前日には法華宗本門流大本山本能寺にて参加者らによる「祈りの時間」が開かれた。当会からは、荒木元悦常務理事、長澤香静事務局長が法要、表彰式に出席した。

◆ 理事 森泰長師本葬儀

〔二月二十七日〕

● 仏 教 会 報 告 ●

二月二十一日に六十七歳で亡くなられた当会理事・東寺執事長森泰長
師の本葬儀が東寺大日堂で営まれた。
当会からは、有馬頼底理事長、宮城泰年常務理事をはじめ、各理事、
評議員らが参列した。

森師は平成八年六月に当会評議員に就任、平成十一年六月からは理事
となり遷化まで努められた。

◆ 第二十二回日本死の臨床研究会近畿支部

〔二月二十八日〕

第二十二回日本死の臨床研究会近畿支部が大津市・ピアザ淡海にて開
催された。「明日への希望を生み出す看取りを目指して」をテーマに淀
川キリスト教病院ホスピス・こどもホスピス副院長・池永昌之氏を座長
に、NPO法人ホームホスピス宮崎理事長・市原美穂氏による基調講
演、午後からは「看取りの質を高める〜多死時代を目前にして尊厳ある
最期を考える〜」と題し、医師、薬剤師、看護師によるシンポジウムが
開かれた。当会からは中尾香代事務局員が出席、医療と宗教を考える研
究会で作成した「いのちそして死」の冊子を参加者に配布した。

◆ 京都東山花灯路二〇一六オープニング

〔三月十二日〕

歴史的文化遺産やまちなみ等を「灯
り」と「花」で演出する早春の風物詩
「京都・東山花灯路」が三月十二日から
二十一日の間、京都東山界隈で開催さ
れた。

京都の活性化と観光振興に寄与する
ための「京都・東山花灯路」は今回で
十四年目を迎え、市民観光客に京都の
新たな風物詩として定着した。期間中、
百十七万人の来場者を迎え盛況となっ



た。また、清水寺・青蓮院をはじめ知恩院・八坂神社・高台寺・園徳
院・法観寺の各寺社において、夜間拝観が行われた。

◆ 深草墓園春季慰霊祭

〔三月二十一日〕

春の日差しの中、京都キリスト教協
会の御奉仕により伏見深草墓園において
春季慰霊式典が厳かに執り行われた。
千名を超える大勢の遺族が参拝に訪
れ、次々と手を合わせ故人の冥福を祈っ
た。

京都市深草墓園は「市民のお墓」とし
て昭和三十三年七月に開設され、今回で
一一六回になる。永年納骨と短期納骨の
取扱いとして市民の利用に供しており、
現在では約九千体の御霊が宗教宗派の別
なく合祀されている。
当会からは、吉田清順評議員が出席した。



◆ 春季彼岸焼骨灰供養法要

〔三月二十三日〕

春彼岸にあたり京都五山の
一つ、臨済宗相国寺派大本山
相国寺方丈において京都仏教
会、京都中央葬祭業協同組合
の共催による恒例の春彼岸供
養法要が営まれた。

臨済宗相国寺派布教師牛江
宗道師の法話に続き、臨済宗
相国寺派管長有馬頼底尻下導



● 仏教会報告 ●

師のもと、山内出仕により彼岸供養法要が厳修された。
春のあたたかい日差しの中、約千五百人もの参拝者を迎え、この半年間にお亡くなりになられた故人をしのぶ焼香の列は後を絶たなかった。
この焼骨灰供養法要は永年回を重ね、今回で百七回目を数えるに至った。

◆ NGOネパール「虹の家」災害支援基金贈呈

〔三月三十一日〕

京都仏教会会議室にて荒木元悦常務理事よりNGOネパール「虹の家」代表理事 事福谷真知子氏に二〇一五年ネパール大地震の災害支援金百万円が贈呈された。
この支援金はカトマンズ県サヌタリ村の親を亡くした子供たちへの教育支援から始まり、村のコミュニティづくりのプロジェクトへと支援活動がすすんでおり、その費用の一部に役立てられる。



◆ 理事 佐伯快勝師葬儀

〔四月五日〕

三月三十一日に八十三歳で亡くなられた当会理事・浄瑠璃寺住職の佐伯快勝師の葬儀が浄瑠璃寺にて営まれ、多数の参列者や当会役員が別れを惜しんだ。佐伯師は平成十一年六月に評議員就任、平成十三年六月には理事となり遷化まで努められた。

◆ おしゃかさまを讃えるタベ

〔四月八日〕

ANAクラウンズプラザホテル京都にて催された「おしゃかさまを讃

えるタベ」は各本山・寺院・各界代表のご招待の方々約四百二十名を迎えた。
本年は臨濟宗天龍寺派佐々木容道管長導師のもと御一山出仕により「花まつり」法要が厳修された。

花御堂には京都府知事ら各界代表が次々と灌仏を行った。

挨拶に立った有馬頼底理事長は、「山川草木悉皆成仏という通り、この世はすべて仏の姿。人と人がお互いのうちに仏を見て、尊重し合うことが大切だ」と述べた。

続いて、「世界文化遺産の真の意味を考える」と題して、元文化庁文化部長寺脇研・京都造形芸術大学教授が記念講演を行った。「本来は滅ぼされそうな文化遺産を守ることが登録の目的。政治主導で候補が決められる文化行政の混迷を見直す必要があり、文化庁京都移転で行政機構が文化を政治・経済から独立して扱う流れになれば」と語った。またその後は会食に入り、花まつりにふさわしく和やかな歓談がいつまでも続いた。

◆ こどもはなまつり

〔四月二十二日〕

はなまつり月間の一環として本年もこどもはなまつり事業が行われた。江崎グリーコ（株）、ライオン（株）にご協力頂き、京都仏教保育園協会を通じて、三十の仏教系保育園へ。また、六ヶ所の福祉施設



● 仏教会報告 ●

へも多くの寄贈の品々が贈られた。配布された菓子類に各園では子どもたちの喜ぶ姿が随所に見られた。

◆ 東日本大震災義援金寄贈

〔五月十八日〕

当會長澤香静事務局長が福島県いわき市にある真言宗智山派福島第一教区宗務所に赴き、東日本大震災義援金六〇六九一六円を寄贈した。東日本大震災で大きな被害があったいわき市の寺院の復興の一部に役立つ。

◆ 日本死の臨床研究会中国・四国支部大会

〔五月二十二日〕

日本死の臨床研究会中国・四国支部大会がサンポートホール高松（香川県）にて開催された。寄り添う、向き合う、聴くこと語ることの意味を問うをテーマに一部は一般からの演題発表、二部は京都大学大学院人間・環境学研究科研究員佐藤泰子氏を講師に「バカボンパパに学ぶ苦しみの人間学」と題し、公開講座が行われた。

当会からは、長澤香静事務局長が出席し、医療と宗教を考える研究会で作成した「いのちそして死」の冊子を参加者に配布した。

◆ 三千院御懺法講法要

〔五月三十日〕

過去の罪業を反省し、心を清らかにする三千院御懺法講法要が三千院宸殿にて営まれた。教文旋律をつけて唱える声明が雨上がりの境内に響き渡り、約二百九十人の参列者が古儀ののつとり再現した宮中法会を静かに見守った。

当会からは、荒木元悦常務理事、長澤香静事務局長らが参列した。

◆ 清水寺国家安泰世界平和祈願献花祭

〔六月二日〕

清水寺において、石清水八幡宮と日本古来の神仏の習合にならって営む「国家安泰世界平和祈願献花祭」が執り行われた。導師は森清範清水寺貫主、齋王は田中恆清石清水八幡宮宮司。

この神仏合同の祭儀は、平成十五年十一月に清水寺の奥之院御本尊開帳を記念した「国家安泰世界平和祈願祭」から毎年実施、十七年からは献花祭の名称でこの時期に行われている。

当会からは、長澤香静事務局長が出席した。

◆ 日本皮膚科学会総会有馬頼底理事長講演

〔六月四日〕

第一一五回日本皮膚科学会総会が三日間に亘り、国立京都国際会館にて開催された。皮膚科学の更なる発展と向上を目指す医師、研究者等六千人を超える参加者の中、有馬頼底理事長が「別に工夫なし」と題し、講演を行った。

また、会場では医療と宗教を考える研究会で作成した「いのちそして死」の冊子を参加者に配布した。

◆ 大阪仏教同友会・京都例会

〔六月二十七日〕

大阪仏教同友会は、京都例会を銀閣寺にて開催した。

「東山文化と西陣文化」と題し、西陣織工業組合理事長渡邊隆夫氏と京都府宗教連盟委員長荒木元悦師の対談。その後、特別拝観を行い、非公開の書院において、仏教を通しての異業種交流の場をもった。

当会からは、荒木元悦常務理事、長澤香静事務局長が出席した。



ZENBUTSU
全仏だより



マイナンバー(共通番号)制度の対応について

1. 経 緯

平成27年10月5日より各市町村から、住民票を持つすべての国民に向けて、世帯毎に「通知カード」(紙)が郵送され、12桁の個人番号が付与されます。平成28年1月以降の税と社会保障に係る手続に利用されることになり、各ご寺院が役職員等から当該個人番号を収集する必要が生じます。

2. マイナンバー制度の目的

マイナンバーは住民票を有するすべての人に番号を付して、行政が社会保障・税・災害対策の分野で効率的に情報を管理し、複数の機関に存在する個人の情報が同一人の情報であることを確認するために活用するとともに、個人が行政手続の際、利便性を向上させることを目的としています。

3. マイナンバー制度への対応

個人番号のプライバシー情報等としての重要性や漏洩リスク回避のため、各ご寺院に個人番号取扱対応や安全管理措置が要求されます。各個人(役職員等)から預かった個人番号を含む情報は、管理担当者を決め、管理場所や管理の道具(PC等)を特定するなどの管理を行ってください。

4. ご留意下さい!

- ①住民票に基づき各世帯に、家族分の「通知カード」が簡易書留にて郵送されてきます。住所地の確認、確実な受領と紛失・盗難等に留意し保管してください。
- ②今後、各ご寺院が行う税や社会保障に係る手続に当該個人番号が必要となるため、各個人(役職員等)から番号収集を行います。役職員等は寺院への提示(番号確認及び身分証明)に協力することになります。
- ③各ご寺院が個人番号を収集する対象者は、内部は役職員等(税務署に源泉徴収票を提出する者等)、外部は個人・報酬・謝金・顧問料等支払先(税務署に支払調書を提出する者)となります。

また、各ご寺院には、国税庁から同時期に13桁の法人番号が付与されます。こちらは管理や保護対象でなく、公表、利用される番号となります。

以 上

監修：朝日税理士法人 公認会計士/税理士 木村 匡成



公益財団法人
全日本仏教会
WFB(世界仏教徒連盟)日本センター

〒105-0011
東京都港区芝公園4-7-4 明照会館2F
電話 03-3437-9275 FAX 03-3437-3260
<http://www.jbf.ne.jp/>

寺院会費

当会もおかげさまでましまして仏教諸行事、文化福祉、研究活動等順調にかつ積極的に推移してきております。これもひとえにご寺院各位のご理解ご協力の賜物と存じます。今後はますます京都が宗教都市として発展しつづけるために、布教・広宣を行い、また多様化する現代社会の情報提供や宗教法人に関する諸問題につきましてもお役に立てるようはかつて参りたいと存じます。つきましては通信費の一部として平成二十八年度分の会費を同封の郵便振替にてご納入の程、よろしくお願い申し上げます。

賛助会費

各界一般会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。平素は何かと本会の活動に対し、ご理解、ご協力賜り厚く御礼申し上げます。おかげをもちまして賛助会員につきましては年々増え続けておりまして有り難いことと存じます。当会も各界のみなさまとともにこの歴史と伝統のある京都において様々に交流や文化事業を通じ、よりよい京都に発展すべく努力して参りたいと存じます。当会の会報を年二回お送り申し上げますことや諸行事のご案内をみなさまとの情報交換の場とし、今後も活動をしてゆきたいと存じます。各位におかれましては、なにとぞこの趣旨にご賛助賜り平成二十八年度分の賛助会費のご納入をよろしくお願い申し上げます。次第でございます。なおご納入は同封の郵便振替にてよろしくお願ひ申し上げます。

平成27年4月より京都仏教会事務所が下記へ移転致しました

新住所

〒602-0898

京都市上京区今出川通烏丸東入ル相国寺門前町 636-1

TEL 075-223-6975・FAX 075-223-6976

《番地のみ変更になりました》

開運曆

檀信徒配布等にご利用下さい。

1部 価格85円

(郵送いたします)

申し込みは

京都仏教会

TEL 075-223-6975

発行日 平成二十八年八月九日

発行所 京都仏教会

〒602-0898 京都市上京区今出川通

烏丸東入相国寺門前町

六三六一一

電話 (〇七五)二三三六九七五

FAX (〇七五)二三三六九七六

印刷所 (株) 精巧社

お墓の事ならなんなりと

一般建設業の許可：京都府知事 許可（般-23）第 3 8 9 1 7 号



石のカウンセラー
株式会社 石 棧

都 みやこ

遠近を問わず
お伺い致します
(見積り無料)

ヨクゾ ヨイイシ
☎ (075)491-4114(代) FAX(075)491-2426

京都市北区小山北玄以町24番地（上賀茂橋西詰バス停前）



住所/京都市左京区下鴨西本町26-2
営業時間/ (都合により変更する場合があります)
17:00~22:00
お問合せ/
075-722-3405
Produced by おのひやき本舗

鉄板焼き・そば・うどん

京表具

表具全般 古書画修復

前田秀畹堂

〒604-8121
京都市中京区柳馬場通錦小路上る
TEL.FAX.075(221)5754

税理士法人 古都

〒600-8431
京都市下京区綾小路通室町西入る
善長寺町139番地AMI四条烏丸ビル405号
TEL・FAX: 075(352)7778
E-mail:nakamasa@bridge.ocn.ne.jp



永年の信用
まごころのご奉仕

公益社

ブライトホール 京都、滋賀に8つの葬祭式場

北ブライトホール [堀川紫明] 山科ブライトホール [五条外環]
中央ブライトホール [五条大和路] 烏丸ブライトホール [烏丸高辻]
南ブライトホール [油小路八条] 宇治ブライトホール [宇治横島]
西ブライトホール [五条西大路] 大津ブライトホール [大津駅南]

本 社 / 京都市中京区烏丸通六角上ル
☎ 0120-004-200 **公益社 京都**

葬 儀

— 人生の終り、もうひとつの門出を美しく —

玉泉院

株式会社 セレマ

もよりの営業所へご連絡ください。(24時間営業)
寝台自動車のご用命も承ります。

京都営業所 ☎(075) 682-4444
宇治営業所 ☎(0774) 32-4242
向日営業所 ☎(075) 921-4444
大津営業所 ☎(077) 524-4444
亀岡営業所 ☎(0771) 22-0042

経済産業大臣認可/全日本葬祭業協同組合連合会加盟

京都中央葬祭業協同組合員名簿

<http://www.kyosokyoku.jp/>



信頼と安心の

全葬連 葬祭サービスガイドライン

●事前相談 ●サービス内容の説明 ●明瞭価格 ●アフターサービス

京葬協は、葬祭サービスガイドラインを遵守いたします

会 社	代 表 者	電 話	所 在 地
㈱ まる い ち	小林 静男	075-441-6254	上京区千本上立売通作庵町518
浅井 厚生 社	浅井 宣壹	075-811-3821	中京区旧二条通千本西入ル
(有) 京 都 日 葬	九谷田満雄	075-811-4242	中京区西ノ京塚本町13-11
花 安 吉 村 和		075-463-7276	中京区西ノ京御輿岡町20
㈱ 公 益 社	松井 昭憲	075-221-4000	中京区烏丸六角上饅頭屋町608
㈱京都セラモニー	松井 昭憲	075-221-8400	中京区烏丸六角上饅頭屋町608
㈱公益サービスセンター	松井 信五	075-551-3422	東山区清閑寺山ノ内町46-2
駕 政	滝口 泰彦	075-691-0826	南区竹田街道大石橋上ル西側
洛王セラモニー㈱	北村 憲司	075-933-4242	南区久世高田町35-3
あ め 直	阪邊賢津子	075-611-0400	伏見区京町六丁目54-1
あ す 華 葬 祭	児 嶋 節 子	075-643-4242	伏見区深草大亀谷古御香町150-8
㈱のじり葬儀店	野 尻 智 美	075-611-4211	伏見区治部町123
葬 祭 華 都 ㈱	岩 見 眞 成	075-573-6633	山科区大宅神納町127
㈱ 山 長	山 田 一	075-861-1422	右京区太秦西蜂岡町1

会 社	代 表 者	電 話	所 在 地
㈱ ア シ ス	岡 本 研 三	075-932-4242	向日市寺戸町西田中瀬3
㈱ 乙 訓	菜 島 康 男	075-952-1520	長岡京市奥海印寺東山15-7
(有)城陽葬祭杉村	杉 村 等	0774-52-2140	城陽市久世南垣内116
㈱宇治葬祭篤辰	木 村 久 孝	0774-31-8072	宇治市五ヶ庄芝の東53
山城葬祭佛現丸屋	小 川 保 善	0774-82-2064	綴喜郡井手町井手柏原83-2
花 福	福 田 善 文	0774-82-2016	綴喜郡井手町井手宮ノ本89
(有) 阪 口	阪 口 仁	0774-76-2146	木津川市加茂町駅西1-5-3
平 城 公 益 ㈱	西 川 弘 人	0774-72-5709	木津川市相楽鳥井7-1
㈱ 松 本 仏 具 店	松 本 光 雄	0771-22-0279	亀岡市安町86
(有) い ち た に	一 谷 和 弘	0771-62-4949	南丹市園部町小山東町水無38
㈱セラモニーまつだ	松 田 政 一	0772-46-2264	与謝郡与謝野町宇弓木956
おのえメモリアル	尾 上 康 則	0772-42-5555	与謝郡与謝野町算所229-1
(有) 向 井 葬 祭	向 井 文 男	0772-72-2002	京丹後市網野町網野3156

最近のお葬式はどのように行われているか、また、費用はいくら位かかるか!? など、お葬式の内容を知りたい方は、上記の各店へ電話でお問い合わせ下さい。

文化財建造物修復・社寺建築設計施工

園 木澤五務店

代表取締役社長 木澤善之
代表取締役会長 木澤源平 専務取締役 木澤善和

本 社 京都市左京区浄土寺真如町111番地-1
TEL (075) 751-0628 (代) FAX (075) 752-9430

営業所・工場 滋賀県愛知郡愛荘町中宿173番地
TEL (0749) 42-2859 (代) FAX (0749) 42-5727

精進料理

上 幸

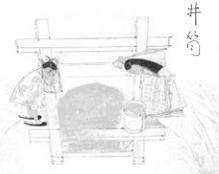
〒604-8503 京都市中京区大宮通り錦上ル
電 話 (075) 821-3872
(075) 821-3837

授与品・記念品・その他一式

井筒授与品店

フリーダイヤル TEL 0120-075-820
フリーダイヤル FAX 0120-075-890

〒601-8348
京都市南区吉祥院観音堂町2番地
E-Mail: izutsu5@iz2.co.jp



筆・墨・硯・紙・簡易表装・短冊
色紙・中国製筆・墨・硯・紙

株式会社 **松 栴 園**

〒600-8075
京都市下京区柳馬場通仏光寺下ル
電 話 (075) 351-6380 (代表)
FAX (075) 361-8006

借地管理でお困りではありませんか？

弊社では、顧問弁護士 橋口 玲 他、司法書士、土地家屋調査士、
宅地建物取引士などの専門スタッフを揃え、円滑な借地管理の
お手伝いをさせて頂いております。現在、管理実績は700戸越えです。

●ご相談・資料請求は無料です。お気軽にお問い合わせ下さい。

株式会社 **玄武管財**

TEL 075-411-1214 / FAX 075-411-1241
京都市上京区相国寺門前町 647 番地 1
E-mail: info@kyoto-genbu.co.jp
http://www.kyoto-genbu.co.jp/



心とむひととき…… JUNSEI

名物ゆどうふ

南禅寺

順正

左京区南禅寺門前 TEL (075) 761-2311
FAX (075) 751-8812

清水順正おかべ家
清水寺門前……TEL (075) 541-7111
祇園円山かがり火
円山公園駐車場前…TEL (075) 541-0002

京石塔
石工事
記念碑



株式
会社

石寅®

石工事・土木工事・造園工事（京都府知事認可）

本店（〒616-8376）京都市右京区嵯峨天竜寺瀬戸川町1-10
電話（075）881-1481番 FAX（075）881-1480番
新丸太町店（〒616-8305）京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町33-2
電話（075）882-2124番 FAX（075）882-2128番
丹波営業所（〒622-0214）京都府船井郡京丹波町上野中野31-1
電話（0771）82-2681番 FAX（0771）82-2751番
京丹波店（〒622-0213）京都府船井郡京丹波町須知天神18-1
電話（0771）89-1481番 FAX（0771）89-1480番
石寅ホームページ URL:<http://www.ishitora.co.jp/>

社寺建築設計施工

伸和建設株式会社

代表取締役 北尾行弘

〒615 京都市右京区西院上花田町21
-0007（西大路三条西入ル南側）
電話 075-311-0054（代表）
FAX 075-322-0152



——— いつも新しい感動を ———

京都ブライトンホテル

京都ブライトンホテルは京都御所の西、閑静な住宅街にあります
ここは、かつて千利休や樂長次郎が行き交ったであろう文化の中心地
この場所にふさわしく、新しい文化発信基地となれるよう
よりよい商品とサービスを提供し続けてまいります



京都ブライトンホテル

〒602-8071 京都市上京区新町通中立売（御所西）
Tel.075-441-4411（代） Fax.075-431-2360
<http://www.brightonhotels.co.jp/kyoto>



京都洛北 四季の彩りと静寂に つつまれて
グランドプリンスホテル京都

洛北の豊かな自然の中で
ごゆっくりと京情緒をお楽しみください。



グランドプリンスホテル京都

〒606-8505 京都府京都市左京区宝ヶ池 TEL:075-712-1111



でかける人を、ほほえむ人へ。西武グループ

文化財修理・保存／文化財調査／絵画・墨蹟・一般表具一式
御本山御用達 古文化財保存修理研究所 (有)矢口浩悦庵

京表具 **こう えつ あん**
浩悦庵

〒602-8025 京都市上京区衣棚通丸太町上る今薬屋町 318 番地
Tel.075-254-6021/Fax.075-254-6022 <http://www.koetsuan.com>



株式会社北尾石材
URL:www.good-stone.com
大原店／八潮店／市原野店／京北店
TEL.075-781-9523 FAX.075-781-0510
〒608-8225 京都市左京区東大路百萬遍上る東側

京念珠® 各宗珠数 各種玉類 製造卸

弊店は珠数製造卸業です。小売は行って居りません。

京都・中珠数屋町
株式会社 **神戸珠数店**

〒600-8153 京都市下京区正面通鳥丸東入
電 話 (075) 371-3929(代)
F A X (075) 371-3930
定休日 日曜・祝祭日・第二第四土曜



世界の歴史都市、
京都の中央に位置し、
世界文化遺産「二条城」の前に佇む
ANA クラウンプラザホテル京都。

ANA CROWNE PLAZA
KYOTO

ANAクラウンプラザホテル京都

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前
Tel 075-231-1155
www.anacpkkyoto.com



伝統の心を映した
古都のやすらぎ

ご宿泊や、おくつろぎのひとつに
また、会合などさまざまなお集まりに、
お気軽にご利用ください。

ご予約・お問い合わせは

◆東急ホテルズ予約センター◆

東京予約センター Tel.(03)3462-0109
札幌予約センター Tel.(011)533-1090
名古屋予約センター Tel.(052)202-1090
大阪予約センター Tel.(06)6314-1090
福岡予約センター Tel.(092)262-1099



京都 東急ホテル

〒600-8519 京都市下京区堀川通五条下ル(西本願寺北側)
Tel: 075-341-2411 Fax: 075-341-2488
www.kyoto-h.tokyuhotels.co.jp

生誕300年

京都の若冲

KYOTOの若冲



百六回(部分)個人蔵
展示期間11/15~12/4

2016 10月4日[火] → 12月4日[日]

月曜日休館、但し10月10日(月・祝)は開館
開館時間 = 9時~17時 但し10月8日(土)と9日(日)は19時まで開館(入場は閉館の30分前まで)

観覧料 = 一般1,200円(1,000円)、高大生1,000円(800円)、小中生500円(300円)

* ()内は前売り、および20名以上の団体料金 * 障害者手帳等をご提示の方と介助の方1名は無料

* 小中生は土・日・祝日は無料 * 前売券は7月9日(土)~10月3日(月)の販売

■ 主なチケット発売所(プレイガイド): ローソンチケット(Lコード:55140)、セブンチケット、イープラス、チケットぴあ(Pコード:767-757)、CNプレイガイド、楽天チケットほか

京都市美術館

京都市左京区岡崎円勝寺町124 (岡崎公園内)
<http://www.2.city.kyoto.lg.jp/bunshi/kmma/>

主催: 京都市美術館(京都市)、MBS、京都新聞 監修: 狩野博幸(美術史家)

お問い合わせ: 06-4950-7555(展覧会事務局) 展覧会ホームページ: <http://www.mbs.jp/jakuchu-kyoto/>